

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	摂南大学
設置者名	学校法人 常翔学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
理工学部	生命科学科			10	17	27	13	
	住環境デザイン学科			10	20	30	13	
	建築学科			10	24	34	13	
	機械工学科			10	21	31	13	
	電気電子工学科			10	24	34	13	
	都市環境工学科			10	23	33	13	
外国語学部	外国語学科				27	27	13	
国際学部	国際学科				25	25	13	
経営学部	経営学科			19		19	13	
	経営情報学科						13	
法学部	法律学科				24	24	13	
経済学部	経済学科				24	24	13	

薬学部 (2023 以前 カリキュラム)	薬学科				30.5	30.5	19	
薬学部 (2025 以後 カリキュラム)	薬学部				39	39	19	
看護学部	看護学科				21	21	13	
農学部	農業生産学科			4	18	22	13	
	応用生物科学科			10	8	18	13	
	食品栄養学科			4	20	24	13	
	食農ビジネス学 科			4	20	24	13	
現代社会学部	現代社会学科			20	20	13		
(備考) 1 外国語学科・経営情報学科は 2021 年度をもって募集停止 2 薬学部の新カリキュラムは 2025 年 4 月開設 3 現代社会学部は 2023 年 4 月開設。4 年次は設置計画に基づき記載								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/syllabus/>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	摂南大学
設置者名	学校法人常翔学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ	: https://www.josho.ac.jp/introduction/officer.html
学園広報誌「FLOW」	: 2024年8月5日発行 P.25 https://www.josho.ac.jp/flow/backnumber.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	[現職] 株式会社上席執行役員	2024年7月20日～ 2026年7月19日	組織運営体制への チェック機能
非常勤	[前職] 市役所職員（部長職）	2024年7月20日～ 2026年7月19日	校友団体との連携
非常勤	[前職] 株式会社顧問	2024年7月20日～ 2026年7月19日	労務担当、 組織運営体制への チェック機能
非常勤	[現職] 株式会社代表取締役	2024年7月20日～ 2026年7月19日	校友団体との連携
非常勤	[前職] 株式会社社会社員	2024年7月20日～ 2026年7月19日	校友団体との連携
非常勤	[前職] 市議会議員	2024年7月20日～ 2026年7月19日	校友団体との連携
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	摂南大学
設置者名	学校法人 常翔学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>																																																						
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>当該授業科目の開講前年度の1月までに授業担当者が授業計画(シラバス)を作成し、授業開講学科の学科長承認および授業開講責任者である学部長の承認を経て、3月下旬にホームページで公表している。</p> <p>授業計画(シラバス)には、「授業概要・目的」「到達目標」「授業方法と留意点」「授業形態」「アクティブラーニングの形式」「科目学修の効果(資格)」「関連科目」「授業計画(各回の授業テーマ、内容・方法等、事前・事後学修の内容および時間)」「教科書・参考書」「評価方法(基準)」「課題に対するフィードバック方法」「担当者の研究室等」などを記載している。</p>																																																						
授業計画書の公表方法		https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/syllabus/																																																				
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>																																																						
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>成績評価は、授業科目ごとに授業計画(シラバス)に定めた方法と基準により行い、100点満点で60点以上を合格として単位を認定している。</p> <p>成績評価の基準、評語およびGP(グレードポイント)は次のとおり。</p>																																																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">成績</th> <th colspan="2">評語</th> <th rowspan="2">GP(グレードポイント)</th> <th rowspan="2">合否</th> </tr> <tr> <th>2024年度以前入学者</th> <th>2025年度以降入学者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定</td> <td colspan="2">T</td> <td></td> <td>認定</td> </tr> <tr> <td>100~90点</td> <td>A</td> <td>S</td> <td>4</td> <td rowspan="4">合格</td> </tr> <tr> <td>89~80点</td> <td>B</td> <td>A</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>79~70点</td> <td>C</td> <td>B</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>69~60点</td> <td>D</td> <td>C</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>S</td> <td>合</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>59~40点</td> <td>E</td> <td>D</td> <td rowspan="3">0</td> <td rowspan="3">不合格</td> </tr> <tr> <td>39~0点</td> <td>F</td> <td>E</td> </tr> <tr> <td>定期試験未受験、評価不能 (2025年度以降入学生は「評価不能」)</td> <td colspan="2">*</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>U</td> <td>否</td> <td>-</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					成績	評語		GP(グレードポイント)	合否	2024年度以前入学者	2025年度以降入学者	認定	T			認定	100~90点	A	S	4	合格	89~80点	B	A	3	79~70点	C	B	2	69~60点	D	C	1	-	S	合	-		59~40点	E	D	0	不合格	39~0点	F	E	定期試験未受験、評価不能 (2025年度以降入学生は「評価不能」)	*		-	U	否	-	
成績	評語		GP(グレードポイント)	合否																																																		
	2024年度以前入学者	2025年度以降入学者																																																				
認定	T			認定																																																		
100~90点	A	S	4	合格																																																		
89~80点	B	A	3																																																			
79~70点	C	B	2																																																			
69~60点	D	C	1																																																			
-	S	合	-																																																			
59~40点	E	D	0	不合格																																																		
39~0点	F	E																																																				
定期試験未受験、評価不能 (2025年度以降入学生は「評価不能」)	*																																																					
-	U	否	-																																																			
<p>履修については年間上限単位数を48単位(経営学部:46単位、現代社会学部:1・2年次のみ44単位)と定めており、教職科目等を除いてこれを超える履修は認めていない。</p> <p>ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した場合(累積GPAが3.0以上)は、成績に応じて6単位まで追加で履修することを認めている。</p>																																																						

また、各年次において、上位年次への進級要件を定めており、これを充足しない場合は上位年次配当科目の履修を許可しない。

なお、現代社会学部は進級要件ではなく、一部科目の履修要件を定めている。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

全学部ともにGPAを導入している。算出方法は次のとおり。

(2025年度以降入学生)

$$GPA = \frac{(4 \times S \text{ の修得単位数}) + (3 \times A \text{ の修得単位数}) + (2 \times B \text{ の修得単位数}) + (1 \times C \text{ の修得単位数})}{\text{履修した授業科目の単位数の総和 (成績評価が「D」、「E」、「+」の科目の単位数も含む)}}$$

※GPAの計算対象外の授業科目は、成績評価が「T」、「合」、「否」の科目、ならびに卒業要件に含まれない科目のほか、学部によって別に定めています。..

(2024年度以前入学生)

$$GPA = \frac{(4 \times A \text{ の修得単位数}) + (3 \times B \text{ の修得単位数}) + (2 \times C \text{ の修得単位数}) + (1 \times D \text{ の修得単位数})}{\text{履修した授業科目の単位数の総和 (成績評価が「E」、「F」、「+」の科目の単位数も含む)}}$$

※GPAの計算対象外の授業科目は、成績評価が「T」、「S」、「U」の科目、ならびに卒業要件に含まれない科目のほか、学部によって別に定めています。..

GPAの算出対象科目は、卒業に必要な単位に含めることができない科目、および成績の評語が「T」「S」「U」(2025年度以降入学生は「T」「合」「否」)の科目を除くすべての科目。

なお、入学時からの累積GPAが1.3以上であることを卒業要件としている。

学生には入学時ガイダンスのほか、毎年実施する履修ガイダンスにおいて、GPA制度について周知徹底を図っている。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/gpa/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

学士課程および各学部・学科ごとに卒業認定・学位授与方針(ディプロマポリシー)を定めている。

学部ごとに卒業に必要な単位数を次のとおり定めるとともに、専門科目・教養科目等の科目区分ごとにも必要な単位数の要件を定めている。

理工学部	124 単位以上
外国語学部	124 単位以上
国際学部	124 単位以上
経営学部	124 単位以上
薬学部	186 単位以上
法学部	124 単位以上
経済学部	124 単位以上
看護学部	128 単位以上
農学部	124 単位以上

現代社会学部 124 単位以上	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.setsunan.ac.jp/faculty/ teaching/policy/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	摂南大学
設置者名	学校法人 常翔学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学園ホームページ https://www.josho.ac.jp/introduction/outline.html
収支計算書又は損益計算書	//
財産目録	//
事業報告書	//
監事による監査報告(書)	//

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:事業計画 対象年度:2025年度)
公表方法: https://www.josho.ac.jp/introduction/plan.html
中長期計画(名称:①j-Vision37 ②第I期中期目標・計画 対象年度:①2023~2037年度 ②2023~2037年度)
公表方法: 学園サイト、事業報告書 https://www.josho.ac.jp/introduction/file/J-Vision37.pdf https://www.josho.ac.jp/introduction/outline.html

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 本学ウェブサイト「点検・評価」 https://www.setsunan.ac.jp/about/evaluation/ 摂南大学 自己点検評価書・本編 https://www.setsunan.ac.jp/about/evaluation/files/jikotenkenhyoukasyo-setsunanR5.pdf

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 本学ウェブサイト「点検・評価」 https://www.setsunan.ac.jp/about/evaluation/ 令和5年度 大学機関別認証評価 評価報告書 https://www.setsunan.ac.jp/about/evaluation/files/hyoukahoukokusyo-setsunanR5.pdf

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 法学部 法律学科
教育研究上の目的 (公表方法: 本学ウェブサイト https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/law/)
(概要) 幅広い教養と法学・政治学・法政策学に関わる専門的知識に裏打ちされ、論理的に問題解決ができる能力を有し、主体的に社会貢献をなす人間力を持った人材を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法 https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/law/)
(概要) ディプロマ・ポリシー (DP: 卒業認定・学位授与の方針) 本学科の課程を修め、所定の単位を修得したうえで、次の要件を満たした者に学士(法学)の学位を授与します。
■知識・理解 [DP 1] 人文・社会・自然・スポーツ科学などからなる多様な教養科目を学修し、国際的教養人としての価値観および知見を身につけている。(専門科目学習の前提となる教養に関する知見) [DP 2] 公法および私法からなる伝統的法学領域、政治過程や国際政治などからなる伝統的政治学領域に加え、地域政策やスポーツ法学などに関する専門的な知識および理解力を有している。(専門科目の基礎知識)
■思考・判断 [DP 3] 法学・政治学・法政策学の専門的知識を活用することができる。(応用問題対応力) [DP 4] 法学・政治学・法政策学の専門的知識を運用し、応用的問題に対する解決策を立案することができる。(応用問題対応・解決力) [DP 5] 社会における諸問題を認知し、利害の衝突を予測したうえで、バランスの取れた解決方法を思考することができる。(リーガルマインド)
■関心・意欲・態度 [DP 6] ゼミ活動やグループワークを行う際に、メンバーの意見に耳を傾け、相手の立場に立ちつつ、協調して活動することができる。(チームワーク) [DP 7] 将来のキャリア形成のため、自主的、計画的に学修する姿勢を身につけている。(能動性・主体性)
■技能・表現 [DP 8] 現代社会における法的、政治的問題に対する情報に興味を持って接し、ゼミ内でそれらの諸問題について、他者に配慮しながら双方向の議論を行うことができる。(コミュニケーション能力) [DP 9] 修得した法学・政治学・法政策学の知識をもとに、自分の考えを口頭ないし文字で的確に表現することができる。(自らの考えを口頭、文章等で正しく表現する力) [DP 10]

修得した法学・政治学・法政策学の知識をもとに、論拠をもって他者を説得することができる。（論拠をもって他者を説得する力）

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法 <https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/law/>）

（概要）カリキュラム・ポリシー（CP：教育課程編成・実施の方針）

ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、次のとおり教育課程を編成・実施します。

■知識・理解

[CP1]

人々の生き方や社会のあり方を多面的に理解できる国際的教養人としての素養を身につけるため、外国語、情報処理、人文社会系、自然系、地域志向系などの分野からなる教養科目を配当する。

[CP2]

法学・政治学・法政策学の学問内容および方法論に関する体系的な知識を修得するため、1年次に導入として法学に関する概論科目、1年次から2年次にかけて基本となる専門科目を段階的に配当する。さらに、基礎から応用までの法学・政治学の知識を段階的かつ体系的に深めるため、2年次から分属する「法律学特修」、「企業法務」、「地域政策」、「スポーツ法政策」の各コースに対応した法学の専門性を広げる科目を配当する。

■思考・判断

[CP3]

法学・政治学・法政策学の専門的知識を活用し、社会における応用的問題を認知し、利害の衝突を予測したうえで、バランスの取れた解決方法を思考する力を身につけるため、2年次からは、専門基礎科目の修得を前提に、公法・刑事法・民事法に関する発展的専門科目を配当する。

■関心・意欲・態度

[CP4]

ゼミ活動やグループワークを行う際に、メンバーの意見に耳を傾け、相手の立場に立ちつつ、協調して活動することができる力を身につけるため、2年次後期からは、学生各自の関心に応じて研究テーマを設定し、協同作業を通じた研究成果の発表を行いつつ、問題点を発見し、それに対する解決力を修得する少人数制の「専門演習」を配当する。

[CP5]

将来のキャリア形成や、自主的、計画的に学習する習慣を身につけるため、初年次からキャリア形成科目を配当する。さらに、2年次より、将来の進路に応じた特別講義を配当する。

■技能・表現

[CP6]

現代社会における法的、政治的問題に対する情報に興味を持って接し、ゼミ内でそれらの諸問題について、他者に配慮しながら議論する力を身につけるため、法学と政治学に関する少人数制の演習科目（1年次「法学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、2年次「プレ専門演習」、「専門演習Ⅰ」、3年次「専門演習Ⅱ」）を配当する。

[CP7]

修得した法学・政治学・法政策学の知識をもとに、自分の考えを口頭ないし文章で的確に表現する力を身につけるため、学生各自が2年次後期から3年次までのゼミ活動を通じて設定した研究テーマに関する卒業論文の執筆と成果の発表を目標とする「卒業研究」を4年次に配当する。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法 <https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/law/>）

<p>(概要) アドミッション・ポリシー (AP: 入学者受入れの方針)</p> <p>本学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを理解し、次に掲げる知識・技能・意欲などを備え、入学後は学修・課外活動に主体的に取り組む人を求めます。</p> <p>■知識・理解</p> <p>[AP 1] 法学・政治学・法政策学の文献の読解および社会科学的文章の表現力の基礎となる「読む・書く」という能力を身につけるための「国語」を修得している。</p> <p>[AP 2] 法学部で学ぶ諸科目の修得のために必要な基礎的教養・知識である人文科学(地理歴史)、社会科学(公民)、数理科学および語学(英語)などに関する高等学校の教育課程を幅広く修得している。</p> <p>■思考・判断</p> <p>[AP 3] 資料を論理的に把握し、分析するための基礎的な思考能力を身につけている。</p> <p>■関心・意欲・態度</p> <p>[AP 4] 法律や政治について興味を持ち、大学で学ぶ法学や政治学や法政策学についての知識や経験を社会で活かしたいという意欲があり、自らの将来のキャリア形成について真剣に考え、その実現のために主体的・計画的に学修する意欲・態度を有している。</p> <p>[AP 5] 課外活動やボランティア活動に、他者と協働して、主体的に取り組んだ経験がある。</p> <p>■技能・表現</p> <p>[AP 6] 自身の考えを他者に伝えることのできるコミュニケーション能力(国語表現力と英語力)を有している。</p> <p>[AP 7] 取得した資格やスポーツの経験などを特定の分野において活用できる能力や技能を有している。</p>
--

<p>学部等名 国際学部 国際学科</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法: 本学ウェブサイト)</p> <p>https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/international/</p>
<p>(概要) グローバル化・ボーダーレス化が進む世界における様々な課題について解決策を見出し、果敢に行動できる人材を育成する。世界の国や地域の歴史・地理・社会・文化等の基礎知識を基に、豊かな教養と広い視野を身につけ、多様な価値観を客観的に理解して判断・発信できるグローバルリテラシーを修得した、国際社会で活躍できる知的専門職業人を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針</p> <p>(公表方法 https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/international/)</p>
<p>(概要) ディプロマ・ポリシー (DP: 卒業認定・学位授与の方針)</p> <p>本学科の課程を修め、所定の単位を修得した上で、次の要件を満たした者に学士(文学)の学位を授与します。</p> <p>■知識・理解</p> <p>[DP 1] 人文・社会・自然科学系分野の基礎知識を身につけるとともに、各分野の関連性についても理解できる。(一般教養と専門教育の基礎知識)</p> <p>[DP 2] 世界の国・地域の歴史、社会、文化についての個別的知識とともに、国・地域間の関係性等について学際的に理解できる。(人文・社会系分野の専門知識)</p> <p>■思考・判断</p> <p>[DP 3] グローバル化する社会の中で、国・地域に固有の課題と国・地域を越えた共通の課題とを識別し、その課題解決に向けて必要な情報を選別し、学術的な視点から妥当な解決方法を提案できる。(問題解決力)</p> <p>[DP 4] 様々な課題を解決する際に、文化的価値観の多様性を視野に入れながら、既存</p>

の考え方の枠組みに捕らわれずに、柔軟な思考・判断ができる。(思考力・判断力)

■ 関心・意欲・態度

[DP 5] 日々刻々と変化する国際社会の動向に関心を持ち、複眼的な観点から、客観的に事態を把握しようとする態度を身につけている。(観察力)

[DP 6] 文化的背景・価値観の異なる他者と積極的に関わろうとする姿勢を持ち、協調して様々な活動を行う意欲を身につけている。(協調性)

■ 技能・表現

[DP 7] 日本語に加え、英語等の外国語も状況に合わせて使用することで、実践的なコミュニケーションを取ることができる。(言語コミュニケーション力)

[DP 8] 情報リテラシー(メディアリテラシー、ICTやAIの活用等)を身につけるとともに、文化的価値観、ジェンダー等にも配慮しながら、状況に合わせて適切に表現できる。(表現力)

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法 <https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/international/>)

(概要) カリキュラム・ポリシー (CP: 教育課程編成・実施の方針)

カリキュラム・ポリシー (CP: 教育課程編成・実施の方針)

ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、次のとおり教育課程を編成・実施します。

■ 知識・理解

[CP 1] 現代社会の諸問題に向き合う上で必要となる基礎的な知識を習得するために、人文・社会・自然科学系等の教養科目を配当する。さらに、専門科目として「世界を学ぶ」「日本を学ぶ」等の文化社会科目を段階的に配当する。

[CP 2] 複雑化する国際社会情勢に対応するべく、特に文化的・社会的視点から領域横断的な知識を習得するために、「エリアスタディーズ」「共同体論」「言語学」等の文化社会科目(地域文化科目・一般学芸科目・言語学芸科目)、また「環境と社会」「グローバルスタディーズ」「ジェンダーとマイノリティ」等の協働学習プロジェクト科目(基幹科目)を段階的に配当する。

■ 思考・判断

[CP 3] グローバル化する社会の中で、自ら課題を発見し、その解決に向けて必要な方法を提案できる力を習得するために、2年次から3年次にかけて文化構想・国際共生・社会協創の3領域にわたる協働学習プロジェクト科目(プロジェクト科目)、また「課題解決型ワークショップ」「ホスピタリティ実習演習」等の協働学習プロジェクト科目(実習・演習科目)を配当する。さらに、1年次から4年次にかけてゼミおよび卒業研究を段階的に配当する。

[CP 4] 様々な課題の発見・解決において、新しい発想を生み出す柔軟な思考力・判断力を習得するために、2年次から3年次にかけて文化構想・国際共生・社会協創の3領域にわたる協働学習プロジェクト科目(プロジェクト科目)、また「課題解決型ワークショップ」「体験型特別実習」等の協働学習プロジェクト科目(実習・演習科目)を配当する。さらに、1年次から4年次にかけてゼミおよび卒業研究を段階的に配当する。

■ 関心・意欲・態度

[CP 5] 国際社会や地域社会、様々な共同体が抱える問題に関心を持ち、複眼的・客観的にそれらを把握する態度を身につけるために、2年次から3年次にかけて文化構想・国際共生・社会協創の3領域にわたる協働学習プロジェクト科目(プロジェクト科目)、また「英語で考える社会問題」「中国語圏の地域と共生」「スペインから世界を見る」「インドネシア語で世界を知る」等の協働学習プロジェクト科目(接続科目)を配当する。さらに、1年次から4年次にかけてゼミおよび卒業研究を段階的に配当する。

[CP 6] 文化的背景・価値観の異なる他者と関わる姿勢、協調して活動する意欲を身につけるために、2年次から3年次にかけて文化構想・国際共生・社会協創の3領域にわたる協働学習プロジェクト科目(プロジェクト科目)、また「英語圏異文化交流論」「中国語と生活文化」「スペインの言語と文化」「インドネシア語と生活文化」等の協働学習プ

プロジェクト科目（接続科目）を配当する。さらに、1年次から4年次にかけてゼミおよび卒業研究を段階的に配当する。

■技能・表現

〔C P 7〕日本語による論理的な表現と正確な伝達ができるように「日本語表現」を配当し、英語による基本的な表現と伝達ができるように「Reading」「Japanese Society and Culture」等の英語基礎科目を配当する。また、英語や他の言語を使用し、状況に応じたコミュニケーションが取れるように、「Business English」「中国語で会話する」「スペイン語会話」「インドネシア語会話」等の英語、中国語、スペイン語、インドネシア語・マレー語の科目を地域言語科目として配当する。さらに、報告・発表を通してコミュニケーション能力を高めるため、1年次から4年次にかけてゼミおよび卒業研究を配当する。

〔C P 8〕情報リテラシー・ICTを身につけるため、「情報リテラシー」を配当し、1・2年次のゼミでもこれらを実践する。また、文化リテラシーを高められるように、「世界を学ぶ」「日本を学ぶ」「エリアスタディーズ」「地域研究プロジェクト」「グローバルスタディーズ」の他、「Studies in Media and Communication」「中国語で読み解く地域社会」「スペイン語を通して学ぶヨーロッパ社会」「インドネシア語で考える現代社会」等の協働学習プロジェクト科目（接続科目）を配当する。さらに、報告・発表を通してこれらのリテラシーを高めるため、1年次から4年次にかけてゼミおよび卒業研究を配当する。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法 <https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/international/>）

（概要）アドミッション・ポリシー（A P：入学者受入れの方針）

本学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを理解し、次に掲げる知識・技能・意欲などを備え、入学後は学修・課外活動に主体的に取り組む人を求めます。

■知識・理解

〔A P 1〕国際学部で学ぶ諸科目の前提となる、「英語」、「国語」、「地理歴史」、「公民」等、高等学校の教育課程を幅広く習得し、基礎的素養を有している。

■思考・判断

〔A P 2〕論理的な文章を読解し、その内容を把握して、自分の考えを適切に表現するための論理的な思考力を身につけている。

■関心・意欲・態度

〔A P 3〕世界の情勢や社会のニュースに関心があり、これらに対する探究心を持っている。

〔A P 4〕他人の考えを尊重し、価値観や文化の多様性を受け入れることができる。

〔A P 5〕課外活動やボランティア活動等、他者との協働に主体的に取り組むことができる。

■技能・表現

〔A P 6〕聞く・話す・読む・書くという基礎的なコミュニケーション能力を身につけている。

学部等名 経済学部 経済学科

教育研究上の目的

（公表方法：本学ウェブサイト

<https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/economics/>）

（概要）経済学を基礎として幅広い見識と豊かな人間性を有し、現代の経済社会の諸問題を自ら発見し、多様な人々と協働してその解決に取り組むことができる人材を養成することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針

（公表方法 <https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/economics/>）

(概要) ディプロマ・ポリシー (DP: 卒業認定・学位授与の方針)
本学科の課程を修め、所定の単位を修得したうえで、次の要件を満たした者に学士(経済学)の学位を授与します。

■知識・理解

[DP1] 人文・社会・自然系などからなる教養および基礎科目を修得し、現代経済学の基礎理論を修得するための基礎知識を身につけている。(専門科目学習の前提となる教養に関する知識)

[DP2] 経済社会が直面している問題の解決に取り組むことができる経済学の知識を有している。(経済学の専門知識)

■思考・判断

[DP3] 経済学の専門知識を習得し、経済学的思考に基づき現代の経済社会が抱える課題について、合理的に問題を解決することができる。(問題解決力)

[DP4] 他人の意見に耳を傾け、これらを取り入れることにより、多面的な思考を持った議論を行うことができる。(ディスカッション能力)

■関心・意欲・態度

[DP5] 経済社会で起きている現象に興味を抱き、書籍やメディアなどから積極的に情報を得ることができる。(主体性)

[DP6] 経済学の知識を基に、国内外のフィールド調査に取り組むことができる。(能動性)

[DP7] 幅広い教養と倫理観、人間性に関して理解し、人々に接することができる。(コミュニケーション能力)

■技能・表現

[DP8] ICT、論理的なコミュニケーションおよびプレゼンテーション力を身につけている。(論理的思考力およびプレゼンテーション能力)

[DP9] 職業人・生活者として自立するとともに、経済活動を通じて社会の発展に貢献できる。(社会に対する洞察力・実践力)

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法 <https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/economics/>)

(概要) カリキュラム・ポリシー (CP: 教育課程編成・実施の方針)
ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、次のとおり教育課程を編成・実施します。

■知識・理解

[CP1] 幅広い見識と豊かな人間性を涵養しながら、現代社会の諸問題に積極的に取り組むことができる知的・専門的能力を養うため、専門科目および教養科目を組み合わせ配置する。

[CP2] 経済学の基礎を学習するため、ミクロ経済学・マクロ経済学などのコア科目を配置する。

[CP3] 専門領域を重点的に学ぶため、2年次からの「ビジネス経済」「金融・不動産経済」「地域経済」「観光経済」「国際経済」の5領域において、それぞれの領域に応じた専門科目を配置する。

■思考・判断

[CP4] 論理的思考の修得を図るため、講義や演習の授業において、適宜、レポートなどを課す。

[CP5] 少人数授業における報告発表・討論を通じて、人の意見に耳を傾け、これらを取り入れながら議論を深め、適切な判断力を養うために、「基礎演習」に始まり「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」「卒業研究」と続く演習科目を配置する。

■関心・意欲・態度

[CP6] 経済社会で起きている現象を研究テーマに選び、その研究に必要な情報収集方法を身につけるため、「基礎演習」「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」「卒業研究」を全員必修

<p>の科目として配置する。</p> <p>〔C P 7〕フィールド調査等を通して能動的に行動できる力を養うため、「基礎演習」「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」「卒業研究」の必修科目およびコースごとに設けている「実践演習」という選択科目を配置する。</p> <p>〔C P 8〕経済社会に関心を持ち、ゼミ内でその諸問題について他者に配慮しながら双方向の議論を行うことができるようにするため、「基礎演習」「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」「卒業研究」を配置する。</p> <p>■技能・表現</p> <p>〔C P 9〕議論の経験を通してコミュニケーション能力を高め、また報告・発表を通してプレゼンテーション能力を高めるため、演習系科目を配置する。</p> <p>〔C P 10〕語学力・情報リテラシーの基礎を学ぶための教養科目を配置し、それらをより高度な次元に高めるため、海外での実践演習やデータ・サイエンスプログラムの科目などを配置する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法 https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/economics/)</p>
<p>(概要) アドミッション・ポリシー (A P : 入学受入れの方針)</p> <p>本学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを理解し、次に掲げる知識・技能・意欲などを備え、入学後は学修・課外活動に主体的に取り組む人を求めます。</p> <p>■知識・理解</p> <p>〔A P 1〕経済学部で学ぶ諸科目の前提となる、「国語」、「英語」、「地理歴史」、「公民」、「数学」など、高等学校の教育課程を幅広く修得し、基礎的素養を有している。</p> <p>■思考・判断</p> <p>〔A P 2〕資料や文章を読解し自分の考えを適切に表現するための論理的な思考力を身につけている。</p> <p>〔A P 3〕数理的なデータを理解し、分析するための基礎的な思考力を身につけている。</p> <p>■関心・意欲・態度</p> <p>〔A P 4〕経済や社会のニュースに関心があり、これらに対する探究心を持っている。</p> <p>〔A P 5〕人と議論を交わし、他人の意見を尊重し、価値観や文化の多様性を受け入れることができる。</p> <p>〔A P 6〕課外活動やボランティア活動に、他者と協働して、主体的に取り組んだ経験がある。</p> <p>■技能・表現</p> <p>〔A P 7〕他者の意見を聴き、自分の意思を口頭または文章により論理的に表現して相手に伝えることができる。</p>
<p>学部等名 経営学部 経営学科</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：本学ウェブサイト https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/management/)</p>
<p>(概要) 企業を中心とする組織一般の運営に関する基礎的な理論と知識を身につけるとともに、幅広い教養をあわせ持ち、自律的・主体的に企業経営の一翼を担うことのできる、実行力ある知的専門職業人を養成する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針</p> <p>(公表方法 https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/management/)</p>

(概要) ディプロマ・ポリシー (DP: 卒業認定・学位授与の方針)

本学科の課程を修め、所定の単位を修得したうえで、次の要件を満たした者に学士(経営学)の学位を授与します。

■知識・理解

[DP 1] 企業を含めた社会で活躍するために必要な幅広い教養を身につけている。(教養知識)

[DP 2] 知的専門職業人として活躍するための基礎となる経営学および各コースの経営諸科学に関する基礎知識を身につけている。(基礎的専門知識)

■思考・判断

[DP 3] 専門分野の諸課題に対して解決を図るための情報の収集・分析の能力、論理的な思考力と問題を発見する能力を身につけている。(情報の収集・分析の能力)(思考力)(問題発見力)

[DP 4] 多角的な観点から思考し判断して問題解決のための計画を立案する能力とともに、計画を実行に移す能力・実践し活用する問題解決力を身につけている。(判断力)(計画性)(実践力)(問題解決力)

■関心・意欲・態度

[DP 5] 社会の規範を遵守しつつ、専門分野を含む多様な社会の諸問題に関心を寄せ、社会や組織の一員として互いの立場を尊重し積極的に他者との協働関係を築き、その問題の解決に主体的に取り組む意欲や態度を身につけている。(倫理観、多様性、協調性、主体性)

■技能・表現

[DP 6] 知的専門職業人として活躍するための前提となるコミュニケーション能力と情報・データの活用を通じた表現力を身につけている。(コミュニケーションスキル、情報リテラシー)

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法 <https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/management/>)

(概要) カリキュラム・ポリシー (CP: 教育課程編成・実施の方針)

ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、次のとおり教育課程を編成・実施します。

■知識・理解

[CP 1] 企業社会で活躍し、また貢献・奉仕することができる幅広い教養とグローバルな視野を持つビジネス・パーソンを育成するため、外国語系、人文科学系・社会科学系・地域志向系などの「教養科目群」および企業経営と密接に関連する「法律科目群」を配置する。

[CP 2] 経営学および各コースに関する基礎的専門知識をステップアップ方式で修得するため、1年次に「基礎演習」「専門基礎演習」、1年次から2年次にかけて「専門基礎科目群」を配置する。

■思考・判断

[CP 3] 専門分野に関する情報・データの収集・分析の能力、ならびに論理的思考を通して問題を発見する能力を身につけるため、2年次から4つの各コース固有の「専門科目群」、4年次に「卒業研究」を配置する。

[CP 4] 企業経営の意思決定で必要となる判断力、計画を立て実践し活用する問題解決力を身につけるため、「応用・実践科目群」ならびに「卒業研究」を配置する。

■関心・意欲・態度

[CP 5] 社会規範や研究倫理を遵守しつつ、専門分野を含む多様な社会の諸問題に関心を寄せ、社会の一員として互いの立場を尊重し積極的に他者との協働関係を築き、その問題の解決に主体的に取り組む意欲や態度を身につけるため、少人数で行われる「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」「卒業研究」を配置する。

■技能・表現

[CP 6] 他者との関係構築のため必須となるコミュニケーションの重要性を理解するた

<p>め社会の仕組みを説きグループワークを行う「キャリアデザインⅠ」を、ならびにコミュニケーション能力の向上と多面的視点に基づき情報・データを活用した表現力修得のため少数人数で行われる「卒業研究」をそれぞれ配置する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法 https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/management/)</p>
<p>(概要) アドミッション・ポリシー (A P : 入学者受入れの方針) 本学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを理解し、次に掲げる知識・技能・意欲などを備え、入学後は学修・課外活動に主体的に取り組む人を求めます。</p> <p>■知識・理解 〔A P 1〕 経営学部で学ぶ諸科目を修得するために必要な基礎的教養・知識である「国語」、「英語」、「地理歴史」、「公民」、「数学」などの高等学校の教育課程を幅広く修得している。</p> <p>■思考・判断 〔A P 2〕「国語」、「英語」の読解力に基づいて、論理的に思考・分析し、その結果を解釈する基礎的能力を有している。 〔A P 3〕「数学」の解析力に基づいて、論理的に思考・分析し、その結果を解釈する基礎的能力を有している。</p> <p>■関心・意欲・態度 〔A P 4〕「地理歴史」、「公民」の学修を通じて、現代の企業が抱える多様な諸課題に関心を持ち、経営に関する専門知識と情報スキルの向上に意欲があり、その目標達成に向け、自ら進んで学修することができる。 〔A P 5〕課外活動やボランティア活動に、他者と協働して、主体的に取り組んだ経験がある。 〔A P 6〕ディプロマ・ポリシーを理解し、経営学部への入学を強く希望している。</p> <p>■技能・表現 〔A P 7〕他者との交流を通じて自分自身を成長させることのできるコミュニケーション能力を有している。 〔A P 8〕取得した資格やスポーツ活動などを通じて得た経験を表現できる能力を有している。</p>

<p>学部等名 現代社会学部 現代社会学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：本学ウェブサイト https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/social/)</p>
<p>(概要) 社会学を基礎とした幅広い見識を有し、社会学的想像力と実践力を身につけた、現代社会が抱える諸課題の解決に貢献できる知的専門職業人を養成する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法 https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/social/)</p>
<p>(概要) ディプロマ・ポリシー (D P : 卒業認定・学位授与の方針) 本学部の課程を修め、所定の単位を修得した上で、次の要件を満たした者に学士(社会学)の学位を授与する。</p> <p>■知識・理解 〔D P 1〕 人文科学系、社会科学系、自然・科学技術系などの教養を身につけるとともに、現代社会学に関する基礎知識を身につけている。(教養と専門の基礎知識) 〔D P 2〕 現代社会で起きている現象を多面的に理解するために必要な専門知識を身につけている。</p>

(現代社会学の専門知識・理解)

■思考・判断

[DP 3] 現代社会の様々な事象に含まれる問題を多様な視点から発見するとともに、実現可能な解決策を提案できる。(課題発見力・解決力)

[DP 4] 未来の社会を柔軟に構想することができる思考力や総合的判断力を有している。(思考・判断力)

■関心・意欲・態度

[DP 5] 現代社会で起きている現象に関心を持ち、社会問題の解決に主体的に取り組むことができる。(関心・意欲)

[DP 6] 多様な価値観を尊重し、高い倫理観を持ち、フィールドワークやゼミ活動で協働することができる。(チームワーク・倫理観)

■技能・表現

[DP 7] 課題の発見・解決のために必要な情報を多様で適切なメディアや実態調査を通して収集し、分析する技能を身につけている。(社会調査力)

[DP 8] 自らの考えを論理的にまとめ、多様な手段を用いて表現・発信することができる。(プレゼンテーション力)

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法 <https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/social/>)

(概要) カリキュラム・ポリシー (CP: 教育課程編成・実施の方針)

ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、次のとおり教育課程を編成・実施します。

■知識・理解

[CP 1] 豊かな人間性を育み、グローバル化や価値観の多様化を理解するための幅広い教養を身につけるため、人文・社会・自然科学系などの教養科目を配当する。さらに、現代社会が抱える諸課題に向き合う上で必要となる基礎知識を身につけるために、「現代社会学入門」「基礎統計学」を配当する。

[CP 2] 現代社会が抱える諸課題をマクロな社会構造の視点、ミクロな諸個人の生活の視点および2つの視点をつなぐコミュニケーション、メディア、表象等の視点での分析・考察に必要な専門知識を身につけるために、「社会構造変動史」「日常生活世界論」および展開科目を配当する。

■思考・判断

[CP 3] 現代社会が抱える諸課題を多面的・多角的に分析・考察し、自ら課題を発見し、その解決に必要な方法を提案できる能力を身につけるために、「FAL 入門」「FAL 実践」「初年次ゼミ」および展開科目を配当する。

[CP 4]

現代社会が抱える諸課題を多面的・多角的に分析・考察することで、柔軟な思考力と判断力に繋げるとともに、新しい発想で未来社会を構想することができる能力を身につけるために、「基礎演習 I」「専門演習 I・II」「卒業研究 I・II」および展開科目を配当する。

■関心・意欲・態度

[CP 5] 現代社会における様々な社会諸領域の現状と課題に関心を持ち、その解決に向けて主体的に取り組む姿勢を身につけるために、「現代社会の諸問題」「FAL 入門」「FAL 実践」「初年次ゼミ」を配当する。

[CP 6] 多様性が重視される現代社会において、高い倫理観を持って他者の意見を受け入れたり、他者との作業を協働的に取り組む力を身につけるために、1年次から4年次にかけて「FAL 演習 I～IV」「初年次演習」「基礎演習 II」を段階的に配当する。

■技能・表現

[CP 7] 現代社会が抱える諸課題の発見・解決のために必要な情報を、多様で適切なメディアや実態調査を通して収集し、分析するスキルを身につけるために、1年次から4年次にかけて社会調査士関連科目および「FAL 演習 I～IV」を段階的に配当する。

[CP 8] プレゼンテーションに必要な他者との議論を通して自らの考えをまとめる能力

<p>と多様な情報を収集・整理・発信する能力を身につけるために、1年次から4年次にかけて「FAL演習Ⅰ～Ⅳ」および「初年次演習」「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「専門演習Ⅰ・Ⅱ」「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」を段階的に配当する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法 https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/social/)</p>
<p>(概要) アドミッション・ポリシー (A P : 入学者受入れの方針) 本学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを理解し、次に掲げる知識・技能・意欲などを備え、入学後は学修・課外活動に主体的に取り組む人を求めます。</p> <p>■知識・理解 [A P 1] 現代社会学部で学ぶ諸科目の前提となる、「国語」、「英語」、「地理歴史」、「公民」、「数学」など、高等学校の教育課程を幅広く修得し、基礎的素養を有している。</p> <p>■思考・判断 [A P 2] 色々な情報を組み合わせて自らの考えをまとめ、適切に判断することができる。</p> <p>■関心・意欲・態度 [A P 3] 身近な社会現象に関心を持っている。 [A P 4] フィールドワークやボランティア活動に積極的に参加する意欲を有している。 [A P 5] 異なる考えや価値観を受入れられる態度を有している。</p> <p>■技能・表現 [A P 6] 対話する力、文章を読む力、文章を書く力を身につけている。 [A P 7] スポーツ・文化活動などの経験を通じて特定の分野において優れた技能を有している。</p>

<p>学部等名 理工学部 生命科学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：本学ウェブサイト https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/science/life-science/)</p>
<p>(概要) バイオに関する高度な知識と技術を持ち、生命機構の真理を追究する能力と人類の健康および自然環境との共生を実現するための実践的な技術を身につけ、医療・食品・環境に関する分野で活躍できる人材を養成する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法 https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/science/life-science/)</p>
<p>(概要) ディプロマ・ポリシー (D P : 卒業認定・学位授与の方針) 本学科の課程を修め、所定の単位を修得したうえで、次の要件を満たした者に学士(理学)の学位を授与します。</p> <p>■科学技術教養 [D P-I] 知的専門職業人にふさわしい科学技術の幅広い分野に関する基礎知識を有する。</p> <p>■人文社会教養 [D P-II] 人間性豊かな社会人・家庭人として必要な人文社会系の基礎知識を有する。</p> <p>■科学技術者倫理 [D P-III] 国際理解・協調と国家・地域社会への貢献の重要性を理解している。また、知的専門職業人にふさわしく、規範やマナーを遵守し、技術者としての倫理観に従った判断ができる。</p> <p>■数理能力 [D P-IV] 数学、科学、情報処理の基礎知識を身につけ、課題に対して定量的に解を求め</p>

るなど、実務に応用できる基礎能力を有する。

■専門知識

[DP-V1] (総合研究コース)

生命科学分野で使用される分析技術を修得し、生命科学のさまざまな分野で活躍するための幅広い知識を身につけている。

[DP-V2] (先端研究コース)

遺伝子組換えを含む生命科学分野の最先端技術を使い、病気の発症機構の解析や生体高分子の機能解析など、生命科学の研究・開発分野で活躍するための知識・技術を修得している。

[DP-V3] (教育スペシャリストコース)

生命科学分野を主軸として、次世代を担う中学・高校生へ自然科学や理科の内容を伝える技術を修得しているとともに、教育・研究に関する分野で活躍するための知識も修得している。

■コミュニケーション力

[DP-VI] 日本語による記述力、コミュニケーションやプレゼンテーションなどの対人能力を有する。また、英語では基礎的読解力など、コミュニケーションのための基礎力を有する。

■学習習慣

[DP-VII] 課題解決や目標達成のために、自主的に情報収集を行い、自ら学習することができる。

■課題解決能力

[DP-VIII] 自ら課題を発見することができ、計画的に解を見つけることができる。チームの課題では、さらに自らの役割を理解して、チームワークを発揮して解を見つけることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法 <https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/science/life-science/>)

(概要) カリキュラム・ポリシー (CP: 教育課程編成・実施の方針)

ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、次のとおり教育課程を編成・実施します。

[CP-I]

知的専門職業人にふさわしい科学技術の幅広い分野に関する基礎知識を身につけるため、教養科目の自然・科学技術系「科学技術教養R」などの科目を配置する。

[CP-II]

人間性豊かな社会人・家庭人として必要な人文社会系の基礎知識を身につけるため、教養科目の人文科学系「文学から学ぶ」と社会科学系「日本の政治」などの科目を配置する。

[CP-III]

国際理解・協調と国家・地域社会への貢献の重要性を認識するため、また知識専門職業人にふさわしく、規範やマナーを遵守し、倫理観に従った技術者としての素養を身につけるため、専門科目の専門共通科目群専門基礎系「生命科学と倫理」、同・ゼミ系「研究基礎演習」、「卒業研究」などの科目を配置する。

[CP-IV]

数学、科学、情報処理の基礎知識を有し、課題に対して定量的に解を求めるなどの実務に応用できる基礎能力を身につけるため、専門科目の専門共通科目群専門基礎系「生物統計学」、「生命科学・統計情報処理」、同・実習演習系「生命科学データベース論・演習」などの科目を配置する。

[CP-V]

(総合研究コース)

生命科学における分析、開発に関する総合的知識と技術をバランスよく身につけるため、専門科目の総合研究コア群「生命科学特別演習I」、「生命科学キャリア支援講座」など

<p>の科目を配置する。</p> <p>(先端研究コース)</p> <p>生命科学における最先端研究に関する知識と技術を身につけるため、専門科目の先端研究コア群「先端生命科学実習」、「先端生命科学英語読解」などの科目を配置する。</p> <p>(教育スペシャリストコース)</p> <p>理科教育に必要な専門的知識と技術を身につけるため、専門科目の教育スペシャリストコア群「生命科学理科教育演習」、「理科教育法Ⅰ」などの科目を配置する。</p> <p>[CP-VI]</p> <p>日本語による記述力、コミュニケーションやプレゼンテーション等の対人能力を身につけるため、専門科目の専門共通科目群ゼミ系「基礎演習Ⅰ」、「研究基礎演習」、「卒業研究」などの科目を配置する。また、英語の基礎読解力や英語によるコミュニケーションの基礎力を身につけるため、教養科目の英語系「基礎英語Ⅰa」、「科学英語」、専門科目の専門共通科目群ゼミ系「基礎演習Ⅱ」、「卒業研究」などの科目を配置する。</p> <p>[CP-VII]</p> <p>自主的に情報収集を行い、自ら学習する習慣を身につけるため、専門科目の専門共通科目群ゼミ系「基礎演習Ⅰ」、「基礎演習Ⅱ」、「研究基礎演習」、「卒業研究」の科目を配置する。</p> <p>[CP-VIII]</p> <p>自ら課題を発見し、計画的に解を見つける能力を身につけるため、またチームによる課題解決では、チーム内での自らの役割を理解して、チームワークを発揮して解を見つける能力を養うため、専門科目の専門共通科目群ゼミ系「基礎演習Ⅰ」、「基礎演習Ⅱ」、「研究基礎演習」、「卒業研究」の科目を配置する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法 https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/science/life-science/)</p>
<p>(概要) アドミッション・ポリシー (AP: 入学者受入れの方針)</p> <p>本学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを理解し、次に掲げる知識・技能・意欲などを備え、入学後は学修・課外活動に主体的に取り組む人を求めます。</p> <p>■知識・理解</p> <p>[AP 1] 高校までの生物・化学または物理の基礎知識を身につけている。</p> <p>[AP 2] 高校までの国語または英語の基礎知識を身につけている。</p> <p>■思考・判断</p> <p>[AP 3] 問いに対して筋道を立てて思考し、解答を得ることができる。</p> <p>■関心・意欲・態度</p> <p>[AP 4] 生物や生命現象に興味を有している。</p> <p>[AP 5] 勉学や課外活動で主体的に活動した経験を有する。</p> <p>■技能・表現</p> <p>[AP 6] 口頭または文章によって意見を表現し相手に伝えることができる。</p>

<p>学部等名 理工学部 住環境デザイン学科</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法: 本学ウェブサイト)</p> <p>https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/science/living-environment/</p>
<p>(概要) 住宅や身の回りの生活を取り巻く多様なデザイン領域に関する知識と技術を修得し、地球環境を含めた広範な人間の住環境に存在する様々な問題点を的確に捉える能力を養う。さらに、これらの問題点の解決方法を提案するためのデザイン感性と実践的技術を修得し、持続可能な生活環境と倫理観を持って創造することができる技術者やデザイナー</p>

<p>となる人材を養成する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法 https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/science/living-environment/)</p>
<p>(概要) ディプロマ・ポリシー (DP: 卒業認定・学位授与の方針) 本学科の課程を修め、所定の単位を修得したうえで、次の要件を満たした者に学士(工学)の学位を授与します。</p> <p>■人文社会教養 [DP-A] 人文・社会科学系教養：語学、社会学、経済学、哲学、文学、歴史学などの多様な人文・社会科学系授業科目の学習により、地球的視点による人間や自然、社会に対する幅広い視野の教養と倫理観を身につけている。</p> <p>■数理能力 [DP-B] 数学・自然科学系教養：数学・自然科学授業科目および情報技術の基礎の学習により、専門知識の理解をより深めるための教養を身につけている。</p> <p>■科学技術者倫理 [DP-C] 住環境デザインに関わる基礎的知識・技術者倫理(専門コア群共通系の学習)：住環境デザインの基礎となる考え方や建築法規を学習し、住環境に関わる技術者としての倫理観や責任感を身につけている。</p> <p>■専門実践力 [DP-D] 住空間を対象とする環境技術と構造技術(専門コア群環境デザイン系の知識)：室内・建築・都市といった住空間の環境系および構造系の専門的技術の基礎的能力および実践的な応用力を身につけている。</p> <p>■専門実践力 [DP-E] 住空間を対象とする計画技術(専門コア群空間デザイン系の知識)：住生活および住環境に関する歴史や意匠の知識を修得し、室内・建築・都市といった住空間を対象とする計画技術を身につけている。</p> <p>■課題解決能力・学習習慣 [DP-F] 調査・分析能力・デザイン力・コミュニケーション力(少人数教育群演習系授業による実践力の育成)：演習系授業科目を通じて、住環境デザインに関する調査、分析の方法を学習し、課題解決力、デザイン力、コミュニケーション力、自主学習力、計画推進力、チームワーク力を身につけている。</p> <p>■コミュニケーション力・チームワーク力・学習習慣 [DP-G] 人間力・統合力(少人数教育群ゼミ系授業による人間力・統合力の育成)：専門ゼミ・卒業研究を通じて、住環境デザインに関する様々な知識の再構築を図り、デザイン力、コミュニケーション力、自主学習力、計画推進力、チームワーク力を養い、人間力と統合力を身につけている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/science/living-environment/)</p>
<p>(概要) カリキュラム・ポリシー (CP: 教育課程編成・実施の方針) ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、次のとおり教育課程を編成・実施します。</p> <p>[CP-A] 地球的視点による人間や自然、社会に対する幅広い視野の教養と倫理観を身につけるため、「基礎英語Ⅰ」から始まる語学系科目、「文学から学ぶ」など人文系科目、「日本の政治」など法律・政治・経済分野の社会科学系科目、「地域と私」など地域問題や文化など地域志向系科目による多様な人文・社会科学系科目を配置する。</p> <p>[CP-B] 専門知識の理解をより深めるための教養を身につけるため、「基礎数学演習」、</p>

「微積分Ⅰ・Ⅱ」、「線形代数Ⅰ・Ⅱ」などからなる数学系科目、「基礎力学演習」、「力学」などからなる科学系科目、「統計情報処理」からなる情報系科目などの数学・自然科学及び情報技術基礎の科目を配置する。[専門基礎群]

[CP-C] 住環境に関わる基礎的な知識やデザイン技能について幅広く学び、住環境デザインの基礎となる考え方や建築法規の学習から住環境に関わる技術者としての倫理観や責任感を身につけるため、「住環境デザイン概論」、「図形科学」、「福祉住環境学」、「居住安全計画」、「デザイン方法論」、「コミュニティプランニング」、「建築法規」、「住環境倫理」、「住環境マネジメント」の科目を配置する。[専門コア群(共通系)]

[CP-D] 室内・建築・都市といった住空間の専門的技術の基礎的能力および実践的な応用力を身につけるため、環境系については、「住環境工学A・B」、「住環境設備」、「環境設備計画A・B」などの科目を配置する。また、構造系については、「建築一般構造学」、「構造デザイン論」、「構造力学Ⅰ・Ⅱ」、「住環境材料学」、「住宅生産学」を配置する。[専門コア群(環境デザイン系)]

[CP-E] 住生活および住環境に関する歴史や意匠の知識を修得し、室内・建築・都市といった住空間を対象とする計画技術を身につけるため、住生活・計画系については、「住生活学」、「建築計画学」、「地域・都市計画学」の科目、歴史・意匠系については、「建築デザイン論」、「近代デザイン史」、「西洋建築史」などの科目を配置する。[専門コア群(空間デザイン系)]

[CP-F] 住環境デザインに関する調査、分析の方法を学習し、課題解決力、デザイン力、コミュニケーション力、自主学習力、計画推進力、チームワーク力を身につけるため、「基礎設計演習」から始まる設計演習科目、「造形演習」や「インテリアデザイン演習」などの空間デザイン系演習科目、及び「空間表現演習A・B」、「環境工学演習」の環境デザイン系演習科目を配置する。[少人数教育群(演習系)]

[CP-G] 住環境デザインに関する様々な知識の統合化を図り、デザイン力、コミュニケーション力、自主学習力、計画推進力、チームワーク力を鍛え、自分の考え方をしっかりと持ちつつ、他者の言葉にも耳を傾け、様々な課題に対してポジティブな提案ができるような人間力、統合力を涵養するため、「ゼミA・B・C」、「スタジオ」、「卒業研究」を配置する。[少人数教育群(ゼミ系)]

なお、3年次からは次の3つのコースに分かれ、より将来の希望進路を意識した学習を可能とする。

1. 環境デザインコース

室内・建築・都市といった住空間の環境系及び構造系の専門的技術の基礎的能力及び実践的な応用力を身につける。

2. 空間デザインコース

住生活及び住環境に関する歴史や意匠の知識を習得し、室内・建築・都市といった住空間を対象とする計画技術の基礎的能力及び実践的な応用力を身につける。

3. 住環境デザイン総合コース

環境デザインと空間デザインに関する包括的な専門知識と技術を身につける。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法 <https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/science/living-environment/>)

(概要) アドミッション・ポリシー (AP: 入学受入れの方針)

本学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを理解し、次に掲げる知識・技能・意欲などを備え、入学後は学修・課外活動に主体的に取り組む人を求めます。

■ 知識・理解

[AP1] 高校までの数学または理科(物理、化学)の基礎知識を身につけている。

[AP2] 高校までの国語または英語の基礎知識を身につけている。

■ 思考・判断

[AP3] 問いに対して筋道を立てて思考し、解答を得ることができる。

<p>■ 関心・意欲・態度</p> <p>[A P 4] 住環境デザイン分野に関する興味を有している。</p> <p>[A P 5] 勉学や課外活動で主体的に活動した経験を有する。</p> <p>■ 技能・表現</p> <p>[A P 6] 口頭または文章によって意見を表現し相手に伝えることができる。</p> <p>[A P 7] デッサンなどの描画または立体造形などの制作によって意見を表現し相手に伝えることができる。</p>

<p>学部等名 理工学部 建築学科</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：本学ウェブサイト)</p> <p>https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/science/architecture/</p>
<p>(概要) 地球環境を含めた広範な人間の生活環境に対する的確な問題意識を持ち、生活基盤となる建築・都市空間の安全性、機能性、審美性の追究と、社会や環境への適切な配慮のできる包括的な知識と技能、さらには倫理観を持った建築設計および建築生産などにかかわる技術者を養成する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針</p> <p>(公表方法)</p> <p>https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/science/architecture/</p>
<p>(概要) ディプロマ・ポリシー (D P：卒業認定・学位授与の方針)</p> <p>本学科の課程を修め、所定の単位を修得したうえで、次の要件を満たした者に学士(工学)の学位を授与します。</p> <p>■ 科学技術教養・人文社会教養</p> <p>[D P-A] 工学技術者として求められる幅広い視野と教養を身につけ、社会の抱える問題を説明できる。</p> <p>■ 科学技術者倫理</p> <p>[D P-B] 技術が人間社会や自然に与える影響、および建築・都市工学技術者の果たすべき役割について学び、倫理的に判断できる。</p> <p>■ コミュニケーション力</p> <p>[D P-C] 語学教育により国内外の文献や資料から幅広い知識を獲得でき、また建築・都市工学技術者として日本語および外国語を用いたコミュニケーションができる。</p> <p>■ 数理能力</p> <p>[D P-D] 建築・都市工学技術者として必要な専門知識の理解を深めるために、数学や物理学などの基礎的な考え方が説明でき、それらを活用できる。</p> <p>■ 課題解決能力</p> <p>[D P-E] 建築・都市工学技術者に求められる空間表現と情報処理技術を学び効果的にプレゼンテーションができる。</p> <p>■ 専門実践力</p> <p>[D P-F] 建築・都市計画に必要な、計画・意匠・歴史・環境に関する基礎的な考え方が説明でき、それらを活用できる。</p> <p>■ 課題解決能力</p> <p>[D P-G] 建築・都市の問題点と課題の抽出方法および改善提案に結びつく調査・分析方法を学び、チームワーク力を発揮して社会の問題を解決するためのデザインを提案できる。</p> <p>■ 専門実践力</p> <p>[D P-H] 建築構造設計および施工管理に関する建築材料、構造設計および施工管理の基礎的な考え方が説明でき、それらを活用できる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法)</p> <p>https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/science/architecture/</p>

(概要) カリキュラム・ポリシー (CP: 教育課程編成・実施の方針)
ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、次のとおり教育課程を編成・実施します。

[CP-A]

工学技術者にふさわしい科学技術の幅広い分野に関する基礎知識を身につけるため、教養科目に自然・科学技術系科目などを配置する。

[CP-B]

技術が人間社会や自然に与える影響、および建築・都市工学技術者の果たすべき役割について学び、倫理的に判断できる技術者としての素養を身につけるため、専門科目「建築法規」、「建築倫理」などの科目を配置する。

[CP-C] 国内外の文献や資料から幅広い知識を獲得でき、また建築・都市工学技術者として日本語および外国語を用いたコミュニケーション能力を身につけるため、教養科目・語学系「基礎英語 I a」、「実践英語 I a」などの科目を配置する。

[CP-D] 建築・都市工学技術者として必要な専門知識の理解を深めるために、数学や物理学などの基礎的な考え方が説明でき、それらを応用できる能力を身につけるため、専門科目・専門基礎群などの科目を配置する。

[CP-E] 建築・都市工学技術者に求められる空間表現と情報処理技術を学び効果的にプレゼンテーションができる能力を身につけるため、専門科目「建築情報処理基礎」、「建築情報処理応用」などの科目を配置する。

[CP-F] 建築・都市計画に必要な、計画・意匠・歴史・環境に関する基礎的な考え方が説明でき、それらを応用できる能力を身につけるため、専門科目「建築計画基礎」、「建築環境工学 I」、「建築設計製図 A」などの科目を配置する。

[CP-G] 建築・都市の問題点と課題の抽出方法および改善提案に結びつく調査・分析方法を学び、チームワーク力を発揮して社会の問題を解決するためのデザインを提案できる能力を養うため、専門科目「建築ゼミ I」、「卒業研究」などの科目を配置する。

[CP-H] 建築構造設計および施工管理に関する建築材料、構造設計および施工管理の基礎的な考え方が説明でき、それらを応用できる能力を身につけるため、専門科目「構造力学 I」、「建築材料」などの科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法

<https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/science/architecture/>)

(概要) アドミッション・ポリシー (AP: 入学者受入れの方針)

本学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを理解し、次に掲げる知識・技能・意欲などを備え、入学後は学修・課外活動に主体的に取り組む人を求めます。

■知識・理解

[AP 1] 高校までの数学、物理の基礎知識を身につけている。

[AP 2] 高校までの国語または英語の基礎知識を身につけている。

■思考・判断

[AP 3] 問いに対して筋道を立てて思考し、解答を得ることができる。

■関心・意欲・態度

[AP 4] 建築・都市分野に関する興味を有している。

[AP 5] 勉学や課外活動で主体的に活動した経験を有する。

■技能・表現

[AP 6] 口頭または文章によって意見を表現し相手に伝えることができる。

[AP 7] 2級建築施工管理技士(学科試験)や建築CAD検定(3級)などの資格を取得している。または、それらに繋がる技能などを有している。

学部等名 理工学部 都市環境工学科

<p>教育研究上の目的 (公表方法：本学ウェブサイト https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/science/urban-environment/)</p>
<p>(概要) 複雑化・高機能化した都市環境を建設・維持管理・リニューアルするハード面の技術と環境に配慮した都市計画を立案するソフト面の技術を修得し、実践的な技術を身につけた即戦力として活躍できる専門職業人を養成する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法 https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/science/urban-environment/)</p>
<p>(概要) ディプロマ・ポリシー (DP：卒業認定・学位授与の方針) 本学科の課程を修め、所定の単位を修得したうえで、次の要件を満たした者に学士(工学)の学位を授与します。</p> <p>■ 科学技術教養 [DP-I] 知的専門職業人にふさわしい科学技術の幅広い分野に関する基礎知識を有する。</p> <p>■ 人文社会教養 [DP-II] 人間性豊かな社会人、家庭人として必要な人文社会系の基礎知識を有する。</p> <p>■ 科学技術者倫理 [DP-III] 国際理解・協調と国家・地域社会への貢献の重要性を理解している。また、知的専門職業人にふさわしく、規範やマナーを遵守し、技術者としての倫理観に従った判断ができる。</p> <p>■ 数理能力 [DP-IV] 数学、科学、情報処理の基礎知識を身につけ、課題に対して定量的に解を求めするなど、実務に応用できる基礎能力を有する。</p> <p>■ 環境認識 [DP-V1] 地球環境や地域環境の保全に関し、社会や時代の要請に応えられる知識と環境意識を有する。</p> <p>■ 計測・測量技術 [DP-V2] 現場技術者に共通の基盤となる測量および計測・計量の基礎を有する。</p> <p>■ 専門知識 [DP-V3] <都市建設コース> 構造工学、建設材料、地盤工学などの専門基礎知識を有し、設計・施工の実務に活用することができる。</p> <p><環境計画コース> 都市計画や交通計画、環境計画、衛生工学などの専門基礎知識を有し、計画・環境の実務に活用することができる。</p> <p><都市環境総合コース> 構造、建設材料、地盤、水工、計画、環境、衛生の幅広い専門基礎知識を有し、計画・設計・施工の実務に活用することができる。</p> <p>■ コミュニケーション力 [DP-VI] 日本語による記述力、コミュニケーションやプレゼンテーションなどの対人能力を有する。また、英語では基礎的読解力など、コミュニケーションのための基礎力を有する。</p> <p>■ 学習習慣 [DP-VII] 課題解決や目標達成のために、自主的に情報収集を行い、自ら学習することができる。</p> <p>■ 課題解決能力</p>

[DP-VIII] 自ら課題を発見することができ、計画的に解を見つけることができる。チームの課題では、さらに自らの役割を理解して、チームワークを発揮して解を見つけることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法 <https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/science/urban-environment/>)

(概要) カリキュラム・ポリシー (CP: 教育課程編成・実施の方針)

ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、次のとおり教育課程を編成・実施します。

[CP-I] 知的専門職業人にふさわしい科学技術の幅広い分野に関する基礎知識を身につけるため、教養科目の自然・科学技術系「科学技術教養Ⅴ」などの科目を配置する。

[CP-II] 人間性豊かな社会人・家庭人として必要な人文社会系の基礎知識を身につけるため、教養科目の人文科学系「文学から学ぶ」、社会科学系「日本の政治」などの科目を配置する。

[CP-III] 国際理解・協調と国家・地域社会への貢献の重要性を認識するため、また知識専門職業人にふさわしく、規範やマナーを遵守し、倫理観に従った技術者としての素養を身につけるため、専門科目・専門コア群の倫理法規系「技術者倫理」、少人数教育群のゼミ系「都市環境基礎ゼミⅡ」、「都市環境ゼミナール」などの科目を配置する。

[CP-IV] 数学、科学、情報処理の基礎知識を有し、課題に対して定量的に解を求めるなどの実務に応用できる基礎能力を身につけるため、教養科目の数理・情報系および専門科目・専門基礎群の数学系、科学系や情報系などの科目を配置する。

[CP-V1] 地球環境や地域環境の保全に関し、社会や時代の要請に応えられる知識と環境意識を養うため、専門科目・専門コア群の環境計画系「環境衛生工学Ⅰ」などの科目を配置する。

[CP-V2] 測量および計測・計量の基礎知識と基礎能力を身につけるため、専門科目・専門コア群の測量・実験系「測量学Ⅰ」、「建設工学実験」などの科目を配置する。

[CP-V3] <都市建設コース>

都市建設系の専門基礎知識を設計・施工の実務に活用できるレベルまで身につけるため、専門科目・専門コア群の建設系「構造力学Ⅰ」、「地盤力学Ⅰ」などの科目を配置する。

<環境計画コース>

環境計画系の専門基礎知識を環境・計画の実務に活用できるレベルまで身につけるため、専門科目・専門コア群の環境計画系「環境衛生工学Ⅰ」、「計画システム」などの科目を配置する。

<都市環境総合コース>

都市建設系・環境計画系の幅広い専門基礎知識を計画・設計・施工の実務に活用できるレベルまで身につけるため、専門科目・専門コア群の建設系「構造力学Ⅰ」、環境計画系「環境衛生工学Ⅰ」などの科目を配置する。

[CP-VI] 日本語による記述力、コミュニケーションやプレゼンテーション等の対人能力を身につけるため、専門科目・少人数教育群の総合演習系「実践日本語演習」、ゼミ系・「都市環境基礎ゼミⅡ」、「卒業研究」などの科目を配置する。また、英語の基礎読解力や英語によるコミュニケーションの基礎力を身につけるため、教養科目の英語系「基礎英語Ⅰa」、「技術英語」などの科目を配置する。

[CP-VII] 自主的に情報収集を行い、自ら学習する習慣を身につけるため、専門科目・少人数教育群のゼミ系「都市環境基礎ゼミⅠ」、「卒業研究」などの科目を配置する。

[CP-VIII] 自ら課題を発見し、計画的に解を見つける能力を身につけるため、またチームによる課題では、自らの役割を理解して、チームワークを発揮して解を見つける能力を身につけるため、専門科目・少人数教育群のゼミ系「都市環境基礎ゼミⅡ」、「卒業研究」などの科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法 <https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/science/urban-environment/>)

(概要) アドミッション・ポリシー (AP: 入学者受入れの方針)
本学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを理解し、次に掲げる知識・技能・意欲などを備え、入学後は学修・課外活動に主体的に取り組む人を求めます。

■知識・理解

[AP1] 高校までの数学、物理の基礎知識を身に付けている。

[AP2] 高校までの国語または英語の基礎知識を身に付けている。

■思考・判断

[AP3] 問いに対して筋道を立てて思考し、解答を得ることができる。

■関心・意欲・態度

[AP4] 都市建設や環境保全に関する分野に興味を有している。

[AP5] 勉学や課外活動で主体的に活動した経験を有する。

■技能・表現

[AP6] 口頭または文章によって意見を表現し相手に伝えることができる。

[AP7] 2級土木施工管理技士(学科試験)や測量士補などの都市環境に関する資格を取得している。または、それらに繋がる技能などを有している。

学部等名 理工学部 機械工学科

教育研究上の目的

(公表方法: 本学ウェブサイト

<https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/science/mechanical-engineering/>)

(概要) 人類、社会が直面する課題の解決に寄与する機械の研究開発やものづくりの基礎となる機械工学の専門知識を修得し、問題を発見し解決するための総合的な能力を身につけた実践的機械技術者を養成する。

卒業又は修了の認定に関する方針

(公表方法

<https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/science/mechanical-engineering/>)

(概要) ディプロマ・ポリシー (DP: 卒業認定・学位授与の方針)
本学科の課程を修め、所定の単位を修得したうえで、次の要件を満たした者に学士(工学)の学位を授与します。

■人文社会教養・科学技術教養

[DP-A1] エネルギー・環境問題などの人類、社会の抱えている問題を理解できる。

■チームワーク

[DP-A2] チームにおいて、それぞれの役割を担い、チームの目標を達成するために働くことができる。

■科学技術者倫理・学習習慣

[DP-A3] 目的を達成するために、粘り強く、自律的に学習できるとともに倫理的な判断・行動ができる。

■数理能力

[DP-B1] 情報技術に関する知識を持っており、それを機械システムの問題解決に応用できる。

■コミュニケーション力

[DP-B2] 言語(日本語ならびに簡単な英語の音声および文字)と図表などを用いて確かなコミュニケーションができる。

■専門基礎力

[DP-C1] 工学に共通する基礎的・普遍的な考えができる。

■課題解決能力

[DP-C2] <機械工学総合コース>

機械工学の基礎に関する知識を持ち、それらを工学的問題の解決に応用できる。

<機械生産コース>

生産技術の課題解決を通して機械工学の基礎を修得している。

■機械加工技術

[DP-D1] 工作機械を使つての機械加工ができる。

■計測技術

[DP-D2] 各種物理量や工業量を計測できる。

■設計製図技能

[DP-D3] 製図法を理解し、物の形を図面に表すことができる。

■デザイン力

[DP-E1] 機能、強度、性能などを考慮して機械要素または機械システムをデザインすることができる。

■実験・データ分析能力

[DP-E2] 実験（シミュレーションを含む）を計画ならびに遂行し、得られたデータを解釈することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法

<https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/science/mechanical-engineering/>)

（概要）カリキュラム・ポリシー（CP：教育課程編成・実施の方針）

ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、次のとおり教育課程を編成・実施します。

[CP-A1] エネルギー・環境問題などの人類、社会の抱えている問題を理解するため、教養科目（自分を知る教養群の人文系、社会を知る教養群の社会科学系）、「エネルギー変換工学」などの科目を配置する。

[CP-A2] チームにおいて、それぞれの役割を担い、チームの目標を達成するために働くことができる能力を身につけるため、「機械創成基礎演習Ⅰ」「機械創成基礎演習Ⅱ」「機械創成応用演習」などの科目を配置する。

[CP-A3] 目的を達成するために、粘り強く、自律的に学習できると共に倫理的な判断・行動ができる能力を身につけるため、「技術者倫理」などの科目を配置する。

[CP-B1] 情報技術に関する知識を持っており、それを機械システムの問題解決に応用できる能力を身につけるため、「プログラミングベーシック」、「プログラミングアドバンス」などの科目を配置する。

[CP-B2] 言語（日本語ならびに簡単な英語の音声および文字）と図表などを用いて確かなコミュニケーションができる能力を身につけるため、「日本語読解」、「日本語表現Ⅰ」、「基礎英語Ⅰ」、「基礎英語Ⅱ」、「英語基礎会話Ⅰ」、「英語基礎会話Ⅱ」、「機械創成基礎演習Ⅰ」、「機械創成基礎演習Ⅱ」、「機械創成応用演習」などの科目を配置する。

[CP-C1] 専門知識の理解を深めるための工学に共通する基礎的な考え方をもちそれらに応用できる能力を身につけるため、「微積分Ⅰ」、「線形代数Ⅰ」、「力学Ⅰ」、「物理学Ⅱ」、「物理学実験」などの科目を配置する。

[CP-C2] 機械工学の基礎に関する知識を持ち、それらを工学的問題の解決に応用できる能力を身につけるため、専門科目（専門コア群の共通系）などの科目を配置する。

[CP-D1] 工作機械を使つての機械加工ができる能力を身につけるため、「基礎機械工作実習」、「応用機械工作実習」を配置する。

[CP-D2] 各種物理量や工業量を計測できる能力を身につけるため、「理工学基礎実験」、

<p>「機械工学実験」などの科目を配置する。</p> <p>[C P-D 3] 製図法を理解し、物体を図面に表すことができる能力を身につけるため、「機械製図Ⅰ」、「機械製図Ⅱ」を配置する。</p> <p>[C P-E 1] 機能、強度、性能などを考慮して機械要素または機械システムをデザインすることができる能力を身につけるため、「基礎機械設計」、「応用機械設計」、「機械創成応用演習」を配置する。</p> <p>[C P-E 2] 実験（シミュレーションを含む）を計画ならびに遂行し、得られたデータを解釈することができる能力を身につけるため、「機械創成応用演習」を配置する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 （公表方法 https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/science/mechanical-engineering/)</p>
<p>（概要）アドミッション・ポリシー（A P：入学受入れの方針） 本学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを理解し、次に掲げる知識・技能・意欲などを備え、入学後は学修・課外活動に主体的に取り組む人を求めます。</p> <p>■知識・理解</p> <p>[A P 1] 高校までの数学、物理の基礎知識を身につけている。</p> <p>[A P 2] 高校までの国語または英語の基礎知識を身につけている。</p> <p>■思考・判断</p> <p>[A P 3] 問いに対して筋道を立てて思考し、解答を得ることができる。</p> <p>■関心・意欲・態度</p> <p>[A P 4] 機械やものづくりの技術に興味を有している。</p> <p>[A P 5] 勉学や課外活動で主体的に活動した経験を有する。</p> <p>■技能・表現</p> <p>[A P 6] 口頭または文章によって意見を表現し相手に伝えることができる。</p> <p>[A P 7] 技術士、機械設計技術者、CAD利用技術者、基本情報技術者などの機械工学系の資格に興味を有している。</p>

<p>学部等名 理工学部 電気電子工学科</p>
<p>教育研究上の目的 （公表方法：本学ウェブサイト https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/science/ee-engineering/)</p>
<p>（概要）社会を支える電気・情報・電子・通信工学の幅広い知識や技術について、電気工学・情報工学を中心に修得し、製品やシステム開発および設計施工などの現場において課題を発見して解決できる実践的な電気系・情報系技術者を養成する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法 https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/science/ee-engineering/)</p>
<p>（概要）ディプロマ・ポリシー（D P：卒業認定・学位授与の方針） 本学科の課程を修め、所定の単位を修得したうえで、次の要件を満たした者に学士（工学）の学位を授与します。</p> <p>■科学技術分野の素養・人文社会分野の要素</p> <p>[D P-A] 電気系や情報系技術者に求められる科学技術や文化・思想などの幅広い教養を身に付け、社会の抱える問題を理解できる。</p> <p>■技術者としての倫理</p> <p>[D P-B] 電気系や情報系の技術が社会や環境に及ぼす影響を理解し、技術者としての倫理観に従った判断ができる。</p>

■数理・情報処理能力

[D P-C] 専門技術の基礎となる数学や物理学を修得し、電気系や情報系の技術に必要な基本的な計算ができる。また、情報処理技術を修得し文書やプレゼンテーション資料などを作成することができる。

■実験・データ解析能力

[D P-D1] 各種の実験を計画的に遂行でき、実測したデータを解析・考察することができる。

■専門知識の習得・応用能力

[D P-D2] <電気系コース>

電気・電子工学の専門知識・技能を修得し、エネルギーやエレクトロニクス分野などにおける課題解決に活用できる。

<情報系コース>

情報工学の専門知識・技能を修得し、情報システムやエレクトロニクス、通信ネットワーク分野などにおける課題解決に活用できる。

<電気・通信システム総合コース>

電気・通信工学の専門知識・技能を修得し、電力・通信インフラ関連分野などにおける課題解決に活用できる。

■デザイン能力

[D P-D3] 専門知識を用いて、与えられた課題において問題点を発見し、制約条件を考慮した解決策を見出して課題を解決できる。

■コミュニケーション能力

[D P-E] 技術的な課題について、論理的な記述、対話、発表ができる。また、技術者に必要な基礎英語や技術英語を修得し、英文の大意を理解できる。

■学修習慣とキャリア形成

[D P-F] 常に情報を収集し、自主的な学修やキャリア形成を継続的に行うことができる。

■業務推進能力

[D P-G1] 与えられた制約下で計画的に作業を進め、まとめることができる。

■協働能力

[D P-G2] チームの目標を達成するために協力して取り組むことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法 <https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/science/ee-engineering/>)

(概要) カリキュラム・ポリシー (C P : 教育課程編成・実施の方針)

ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、次のとおり教育課程を編成・実施します。

[C P-A] 電気系や情報系技術者に求められる科学技術や文化・思想などの幅広い教養を身につけるため、「理工学基礎実験」や「科学技術教養」、「産業技術史」などの教養科目を配置する。

[C P-B] 技術者としての倫理観・責任感を養うため、「技術者倫理」および「技術者への道」、「電波法規」、「電気法規及び施設管理」を配置する。

[C P-C] 数学、物理学、情報処理技術に関する知識を身につけるため、「微積分Ⅰ」、「線形代数Ⅰ」、「物理学Ⅰ」、「統計情報処理」、「Cプログラミング」などの科目を配置する。

[C P-D 1] 各種の実験を計画・遂行することができ、実測したデータを解析・説明することができる能力を身につけるため、「電気情報基礎実験」、「電気系実験Ⅰ」、「情報系実験Ⅰ」、「電気系実験Ⅱ」、「情報系実験Ⅱ」を配置する。

[C P-D 2] 電気、情報、電子、通信工学の幅広い専門知識を身につけるため、専門科目(専門コア群)を配置する。

[C P-D 3] 問題点の発見や制約条件下で課題解決できる能力を身につけるため、「電気情報創成演習」、「卒業研究」を配置する。

[C P-E] 技術者として論理的な記述・対話・発表ができ、基礎英語や技術英語ができる能力を身につけるため、「電気情報創成演習」、「電気系実験Ⅱ」、「情報系実験Ⅱ」、および「基礎英語（Ⅰa、Ⅰb、Ⅱa、Ⅱb）」、「実践英語（Ⅰa、Ⅰb、Ⅱa、Ⅱb）」などの科目を配置する。

[C P-F] 自主的な学修習慣を身につけ、資格取得などのキャリア形成を継続的に行うことができる能力を身につけるため、「電気工学演習」、「情報工学演習」などの演習系科目、教養科目の「インターンシップ」などを配置する。

[C P-G 1] 与えられた制約下で仕事を計画的に進め、まとめることができる能力を身につけるため、「電気情報創成演習」、「電気系実験Ⅰ」、「情報系実験Ⅰ」、「電気系実験Ⅱ」、「情報系実験Ⅱ」を配置する。

[C P-G 2] チームの目標を達成するために協力して働くことができる能力を身につけるため、「電気情報創成演習」、「電気系実験Ⅱ」、「情報系実験Ⅱ」を配置する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法 <https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/science/ee-engineering/>)

(概要) アドミッション・ポリシー (A P : 入学受入れの方針)
本学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを理解し、次に掲げる知識・技能・意欲などを備え、入学後は学修・課外活動に主体的に取り組む人を求めます。

■知識・理解

[A P 1] 高校までの数学、物理の基礎知識を身につけている。

[A P 2] 高校までの国語または英語の基礎知識を身につけている。

■思考・判断

[A P 3] 問いに対して筋道を立てて思考し、解答を得ることができる。

■関心・意欲・態度

[A P 4] 電気、情報、電子、通信関連の技術に興味を有している。

[A P 5] 勉学や課外活動で主体的に活動した経験を有する。

■技能・表現

[A P 6] 口頭または文章によって意見を表現し相手に伝えることができる。

[A P 7] 電気工事士などの電気、電子、情報、通信に関する資格を取得している。または、それらに繋がる技能などを有している。

学部等名 薬学部 薬学科

教育研究上の目的

(公表方法：本学ウェブサイト

<https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/pharm/>)

(概要) 薬剤師として高い倫理観、心豊かな人間性、実践的能力を備え、医療の発展、健康・福祉の増進、生活環境の保全等、健康社会の実現に貢献し、多様な人々と協働して社会で活躍できる人材を育成する。

卒業又は修了の認定に関する方針

(公表方法 <https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/pharm/>)

(概要) ディプロマ・ポリシー (D P : 卒業認定・学位授与の方針)

本学科の課程を修め、所定の単位を修得したうえで、次の要件を満たした者に学士(薬学)の学位を授与します。

■社会的責任と使命

[D P 1] 医療を提供する者としての社会的責任と使命を強く自覚し、常に人々の生命、健康、尊厳を守る意思を有している。

■情報の収集と評価

〔DP 2〕薬物治療の実践に必要な科学に裏付けられた情報および患者の身体的、心理的、社会的背景等の情報を収集し、総合的に評価する技能を有している。

■生涯にわたる自己研鑽とキャリア形成

〔DP 3〕医療等の進歩を知り、薬剤師に対する社会の要請に応えるため、多様な選択肢の中から自らの適性に合った領域を選択し、生涯にわたって自己並びに他者と共に研鑽を続ける意欲を有している。

■多角的な観察と解析

〔DP 4〕医療の進歩の一端を担うため、多角的な視点で自然や生命の現象を科学的に観察および解析する基本的な能力を有している。

■科学の知識の活用

〔DP 5〕生体の特性および医薬品の性質を理解し、薬物治療を科学的な視点から支える能力を有している。

■薬物療法における実践的能力

〔DP 6〕患者の様々な病態における薬物療法を総合的に評価し、医薬品の供給、調剤、服薬指導、処方設計の提案、安全性や有効性を担保するなどの薬学的管理を実践する能力を有している。

■コミュニケーション

〔DP 7〕情報を適切かつ的確に伝達できる表現能力を身につけているとともに、コミュニケーションを通じて豊かな人間関係を構築する能力を有している。

■地域における多職種との連携

〔DP 8〕地域の中で、住民および多職種と連携し、健康と福祉の維持・増進、生活環境の保全、公衆衛生等を担う専門家としての基本的な能力を有している。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法 <https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/pharm/>)

(概要) カリキュラム・ポリシー (CP: 教育課程編成・実施の方針)

ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、次のとおり教育課程を編成・実施します。

< 1 年次 >

基礎学力を補完し、ディプロマ・ポリシーに掲げる「8つの資質・能力」の修得に共通する教養を得るために、薬学を学ぶうえで必須な学修を開始し、広い視野を身につけ様々な分野で活動する基盤を作るプログラムを実施する。これらの実現のために、「薬学基礎演習 I・II」、「早期体験学習」、各教養科目などを配置する。

< 1～6 年次 >

■社会的責任と使命

「社会的責任と使命」を身につけるため、自己のあり方と他者との関わりを考えるプログラムを実施する。この実現のため、「臨床薬学 I～V」、「生命倫理学」などの科目を配置するとともに、課外活動を奨励する。

■情報の収集と評価

「情報の収集と評価」を身につけるために、自然科学や臨床における情報の収集、解析能力を修得するプログラムを実施する。これらの実現のため、各種実習科目、「臨床薬学演習 I～IV」などの科目を配置する。

■生涯にわたる自己研鑽とキャリア形成

「生涯にわたる自己研鑽とキャリア形成」を身につけるために、卒業後も継続した自己研鑽が必要であることを自覚するためのプログラムを実施する。これらの実現のために、「臨床コース演習」、「研究コース演習」、「薬局経営コース演習」、「地域連携・学習支援コース演習」、「臨床事後演習」などの科目を配置するとともに、課外活動を奨励する。

■多角的な観察と解析

「多角的な観察と解析」を身につけるために、自然や生命の現象の科学的な観察および解析に必要な知識と技能および薬学研究に必要な態度を修得するプログラムを実施する。これらを実現するために、「統計学・データサイエンス」、「薬学実習 I、II」、「薬学研

究Ⅰ～Ⅲ」などの科目を配置する。

■科学の知識の活用
「科学の知識の活用」を身につけるために、自然科学の知識を補完し、薬学の基礎および専門知識や情報処理能力を修得するプログラムを実施する。これらの実現のため、各種実習科目、「薬学演習Ⅰ～Ⅲ」などの科目を配置する。

■薬物療法における実践的能力
「薬物療法における実践的能力」を身につけるために、疾病の成因および薬物治療を理解し、薬物の構造的特徴や剤形から体内動態を予測するプログラムを実施する。これらの実現のために、「臨床薬学演習Ⅰ～Ⅳ」、「臨床事前実習」、「臨床事後演習」などの科目を配置する。

■コミュニケーション
「コミュニケーション」を身につけるため、自らの役割を考え、対話的に意思決定するプロセスを学ぶプログラムを実施する。これらの実現のため、「臨床心理学」、「臨床薬学演習Ⅰ～Ⅳ」、「臨床事前実習」などの科目を配置する。

■地域における多職種との連携
「地域における多職種との連携」を身につけるために、地域における薬学と薬剤師の役割を理解するプログラムを実施する。これらの実現のために、「臨床薬学演習Ⅰ、Ⅳ」、「臨床事前実習」などの科目を配置する。

<5～6年次>

■「8つの資質」を統合的に身につけるには、4年次に「臨床事前実習」、「薬学研究Ⅰ」などで獲得したパフォーマンスレベルをさらに向上させる必要がある。5～6年次では、臨床現場や研究室等の実地において、パフォーマンスを繰り返すことにより統合的な能力の定着を図る教育プログラムとして、「薬学研究Ⅱ、Ⅲ」、「薬学臨床実習」、「臨床事後演習」などの科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針
(公表方法 <https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/pharm/>)

(概要) アドミッション・ポリシー (AP: 入学者受入れの方針)
本学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを理解し、次に掲げる知識・技能・意欲などを備え、入学後は学修・課外活動に主体的に取り組む人を求めます。

■知識・理解・思考・判断・技能
[AP1] 化学を基本とする理科学科だけでなく、数学・語学などに対する高等学校までの学習を基盤とした知識を活用する力を有している。

■関心・意欲・態度・技能・表現
[AP2] 豊かな人間性を重視する価値観を基盤とした、自らの活動実例を表現できる力を有している。

■関心・意欲・態度
[AP3] 高等学校の学習課程に限らない様々な学習に対して強い興味を示し、主体的に習得する力を有している。

■理解・思考・判断・関心・態度・表現
[AP4]
相手を思いやり、柔軟なコミュニケーションができる力を有している。

学部等名 看護学部 看護学科
教育研究上の目的
(公表方法: 本学ウェブサイト
<https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/nursing/>)

(概要) 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観、心豊かな人間性と看護実践能力を備えた人材を育成し、地域社会における保健・医療・福祉の向上、看護の発展に貢献できる看護職者を養成する。

卒業又は修了の認定に関する方針

(公表方法 <https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/nursing/>)

(概要) ディプロマ・ポリシー (DP: 卒業認定・学位授与の方針)
本学科の課程を修め、所定の単位を修得したうえで、次の要件を満たした者に学士(看護学)の学位を授与します。

■知識・理解

[DP 1] 心豊かな人間性と個人・家族・集団・組織を理解するための幅広い教養を身につけている。(基礎的教養)

[DP 2] 対象理解や看護実践に繋がる看護・保健や薬に関する専門的知識を身につけている。(専門的知識)

■思考・判断

[DP 3] 広く多角的に情報を収集し、科学的根拠に基づき、問題を解決できる能力を身につけている。(問題解決力)

■関心・意欲・態度

[DP 4] 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理的な姿勢を身につけている。(倫理観)

[DP 5] 保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し意欲的に他者と協働関係を築く力を身につけている。(チームワーク)

[DP 6] 地域社会と看護の発展に貢献する意思をもち、看護職として自己研鑽の姿勢を身につけている。(学習意欲・態度)

■技能・表現

[DP 7] 科学的根拠に裏打ちされた安全安楽な看護を提供すると同時に、人々の健康と生活の質の向上に寄与するための実践能力を身につけている。(実践力)

[DP 8] 多様な人々と信頼関係を築くことができるコミュニケーション力および自らの考えを表現する力(読解力、文書力、プレゼンテーション力、情報リテラシーなど)を身につけている。(コミュニケーション力・リテラシー)

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法 <https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/nursing/>)

(概要) カリキュラム・ポリシー (CP: 教育課程編成・実施の方針)
ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、次のとおり教育課程を編成・実施します。

■知識・理解

[CP 1] 心豊かな人間性を涵養し、広範な教養と幅広い視野を身につけ、個人・家族・集団・組織およびそれを取り巻く社会への理解を深める教養科目を配置する。

[CP 2] 身体を系統立てて理解し、健康・疾病に基づいた観察力、判断能力を養う専門基礎科目群を配置するとともに、看護を实践するうえで必要となる知識を身につける各看護学専門領域科目群を配置する。

■思考・判断

[CP 3] 物事を探求する研究的思考を持ち続け、広く多角的に情報を収集する能力を身につける専門科目および医療演習系科目を配置する。各看護学専門領域科目群は、講義・演習・実習の授業形態により、知識、技術、態度が体系的に思考でき、確実な問題解決能力が養われるよう専門科目に「統計の基礎」、「保健統計学」、「看護学概論」、「看護学援助論」、「看護学実習」と看護の統合と実践科目群を段階的に配置する。

■関心・意欲・態度

[CP 4] 1~4年次まで、段階に応じた倫理観を養う「看護倫理」、「看護学概論」「看

<p>護学実習」、「看護研究」などの専門科目を配置する。</p> <p>〔C P 5〕1～4年次まで、他学部との協働学習によるチームワークを涵養する医療演習系科目を配置する。また、保健医療チームの一員として協働関係を築く力を養う「看護学実習」を配置する。</p> <p>〔C P 6〕地域社会と看護の発展に貢献する「看護研究」、「統合看護学実習」などの専門科目を配置する。また、目指す看護職像を意識したうえでキャリア設計し、将来ビジョンを明確にしていく力を育むキャリアデザイン系科目や「看護学実習」の専門科目を配置する。</p> <p>■技能・表現</p> <p>〔C P 7〕科学的根拠に裏打ちされた安全安楽な看護を提供すると同時に、人々の健康と生活の質の向上に寄与する実践能力を身につけるために、講義・演習・実習の授業形態による専門科目「看護学概論」、「看護学援助論」、「看護学実習」を段階的に配置する。</p> <p>〔C P 8〕多様な人々との信頼関係構築に必要なコミュニケーション力を身につける「患者コミュニケーション」、「カウンセリング論」、「看護対人関係論」、「看護学援助論」、「看護学実習」などを配置する。また、自らの考えを表現する力を身に付ける「情報リテラシー」、「看護研究」などを配置する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法 https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/nursing/)</p>
<p>(概要) アドミッション・ポリシー (A P : 入学者受入れの方針)</p> <p>本学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを理解し、次に掲げる知識・技能・意欲などを備え、入学後は学修・課外活動に主体的に取り組む人を求めます。</p> <p>■知識・理解</p> <p>〔A P 1〕国語および外国語の文章を読み解き、かつ自分の考えを論理的に文章として書くことのできる基礎的な知識を有している。</p> <p>〔A P 2〕看護の基礎となる生命現象に対する数学、理科(生物・化学)に関する基礎的な知識を有している。</p> <p>■思考・判断</p> <p>〔A P 3〕自然科学の現象について自ら調べ、論理的に考えることができる力を有している。</p> <p>■関心・意欲・態度</p> <p>〔A P 4〕倫理・道徳観を持ち、生命や人の尊厳を大切にする態度を有している。</p> <p>〔A P 5〕主体的に課外活動やボランティア活動に参加し、他者と相互理解しようとする姿勢を有している。</p> <p>〔A P 6〕人や看護に関心があり、将来、看護職として地域社会に貢献したいと考え、主体的に学び続ける態度や柔軟な創造力を有している。</p> <p>■技能・表現</p> <p>〔A P 7〕人と良好な関係を築き、他者の意見に耳を傾け、自分の考えも適切に相手に伝える力を有している。</p>

<p>学部等名 農学部 農業生産学科</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法: 本学ウェブサイト https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/agri/agricultural-production/)</p>
<p>(概要) 生物や生産環境の科学的真理の解明および生物資源と農業生産技術の開発とその高度利用を追究し、環境への負荷が少なく、生産効率の高い農業生産を実現、および新技術の開発・普及に必要な知識・技術を身につけ社会に貢献できる人材を養成する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針</p>

(公表方法

<https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/agri/agricultural-production/>)

(概要) ディプロマ・ポリシー (DP: 卒業認定・学位授与の方針)
本学科の課程を修め、所定の単位を修得したうえで、次の要件を満たした者に学士(農学)の学位を授与します。

■知識・理解

[DP1] 豊かな人間性と人や社会を理解するための幅広い教養を身につけている。(基礎的教養)

[DP2] 農業生産の基礎的なしくみ、原理について専門的知識を身につけている。(専門的知識)

■思考・判断

[DP3] 農業生産の技術的課題に対し、広く多元的に情報を収集し、科学的根拠に基づき、解決できる能力を身につけている。(問題解決力)

[DP4] 多角的な観点から柔軟かつ公正に思考し判断するための基本的な論理的思考能力を身につけている。(論理的思考力)

■関心・意欲・態度

[DP5] 高い倫理性をもって、農業生産の発展のために、継続的に取り組む探究心と意欲を有している。(学習意欲・態度、倫理観)

[DP6] 互いの立場を尊重し、意欲的に他者と協働関係を築くことができる。(チームワーク)

■技能・表現

[DP7] 専門知識を、農業生産の現場で遭遇する事象や直面する様々な技術的課題の解決に向けて実践的に活用することができる。(実践力)

[DP8] 日本語や英語などによる円滑なコミュニケーション能力をもち、自分の考えを論理的に口頭や文章で発表し、討論できる能力を有している。(コミュニケーション力)

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法

<https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/agri/agricultural-production/>)

(概要) カリキュラム・ポリシー (CP: 教育課程編成・実施の方針)
ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、次のとおり教育課程を編成・実施します。

[CP1] 豊かな人間性を育み、人や社会を理解するための幅広い教養を身につけるため、教養科目(語学系、情報系、体育系、人文系、社会系、自然系)を配置する。[知識・理解・思考・判断・関心・意欲・態度・技能・表現]

[CP2] 自分の人生を自らが主体的に構築・設計するとともに、チームで協働する力を育み、社会で活躍するために、「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」「インターンシップ基礎・実践」などの科目を教養科目(キャリア系、地域志向系、教養特別系)として配置する。[知識・理解・思考・判断・関心・意欲・態度・技能・表現]

[CP3] 農学を学ぶために必要な知識・技能・態度を身につけるため、「農学概論」「農学基礎演習」を配置するとともに、地球規模や未来志向の視点から農学を幅広く学ぶため、「グローバル農業演習」「スマート農業演習」「農業知的財産」などの科目を専門科目・共通群として配置する。[知識・理解・思考・判断・関心・意欲・態度・技能・実践力]

[CP4] 生物・生命の諸現象とその原理を学修するうえで必要な基礎力を身につけるため、「化学」「生物学」「生物統計学」などの科目を専門科目・専門コア群(基礎系)として配置する。[知識・理解・思考・判断]

[CP5] 作物の育成と栽培を成り立たせている学問分野の専門的知識と農業生産にかかる諸課題の解決に資する能力を身につけるため、「植物生理学」「植物育種学」「作物学」

などの科目を専門科目・専門コア群（農業植物・栽培系）として配置する。〔知識・理解・思考・判断・関心・意欲〕

〔C P 6〕作物を取りまく生物学的、化学的および物理学的環境要因と作物との関係を明らかにし、作物生産を成り立たせている学問分野の専門的知識と農業生産にかかる諸課題の解決に資する能力を身につけるため、「植物病理学」「応用昆虫学」「土壌学」などの科目を専門科目・専門コア群（農業生物・環境系）として配置する。〔知識・理解・思考・判断・関心・意欲〕

〔C P 7〕自らの知的関心・興味や将来の専門的活動分野等に応じて、基幹科目を通じて得られた専門的知識・分析能力をさらに深化・発展させるため、応用生物科学および食農ビジネスに関わる科目を専門科目・専門コア群（展開系）として配置する。〔知識・理解・思考・判断・関心・意欲〕

〔C P 8〕農業生産科学の研究および作物生産の場において必要な実験手法、農業生産技術およびその理論と実践する能力を身につけるため、「生物学実験」「農業生産学基礎実験Ⅰ」「農業生産学実習Ⅰ」などの科目を専門科目・専門コア群（実験・実習系）として配置する。〔知識・理解・思考・判断・関心・意欲・態度・技能・表現・実践力〕

〔C P 9〕食料・生命・環境にかかわる諸問題に対して多元的な視点と広い知識をもち、農業生産の視点からの問題解決に資する能力を身につけるため、生物科学に関わる科目（応用生物系）、食品と栄養に関わる科目（食品栄養系）、食農ビジネスに関わる科目（食農ビジネス系）を専門科目・専門総合群として配置する。〔知識・理解・思考・判断・関心・意欲・態度・技能・実践力〕

〔C P 10〕農業生産への関心・意欲を高め、主体的な学修態度を身につけるため、「基礎ゼミナール」を配置し、課題の発見と解決のために必要な研究計画とその研究生活態度、並びに情報の収集・発信力を身につけるため、「農業生産学研究」「卒業研究」の科目を専門科目・ゼミ・卒業研究として配置する。〔知識・理解・思考・判断・関心・意欲・態度・技能・表現・実践力〕

入学者の受入れに関する方針

（公表方法

<https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/agri/agricultural-production/>)

（概要）アドミッション・ポリシー（A P：入学者受入れの方針）

本学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを理解し、次に掲げる知識・技能・意欲などを備え、入学後は学修・課外活動に主体的に取り組む人を求めます。

■知識・理解

〔A P 1〕高校までの生物、化学、数学、国語、英語の基礎知識を身につけている。

■思考・判断

〔A P 2〕問いに対して筋道を立てて思考し、解答を得ることができる。

■関心・意欲・態度

〔A P 3〕植物やその生育などに興味を有している。

〔A P 4〕勉学や課外活動で主体的に活動した経験を有する。

■技能・表現

〔A P 5〕他者の意見を聴き、自分の意思を口頭または文章により論理的に表現して相手に伝えることができる。

学部等名 農学部 応用生物科学科

教育研究上の目的

（公表方法：本学ウェブサイト

<https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/agri/biological-science/>)

(概要) 生物・生命の諸現象と、その背後にある原理とメカニズムを、分子から個体、集団、生態系を含む視点で深く学び、身につけた広範な知識を基に、人類が直面している食料、生命、環境に関わる諸課題の解決に貢献できる、創造力の豊かな人材を養成する。

卒業又は修了の認定に関する方針

(公表方法

<https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/agri/biological-science/>)

(概要) ディプロマ・ポリシー (DP: 卒業認定・学位授与の方針)
本学科の課程を修め、所定の単位を修得したうえで、次の要件を満たした者に学士(農学)の学位を授与します。

■知識・理解

[DP 1] 豊かな人間性と人や社会を理解するための幅広い教養を身につけている。(基礎的教養)

[DP 2] 生命・生物の諸現象と、その背後にある原理とメカニズムについて専門的知識を身につけている。(専門的知識)

■思考・判断

[DP 3] 食料・生命・環境にかかわる諸課題に対し、広く多角的に情報を収集し、生物科学の視点から、解決できる能力を身につけている。(問題解決力)

[DP 4] 多角的な観点から柔軟かつ公正に思考し判断するための基本的な論理的思考能力を身につけている。(論理的思考力)

■関心・意欲・態度

[DP 5] 高い倫理性をもって、食料・生命・環境に関心を持ち、継続的に取り組む探究心と意欲を有している。(学習意欲・態度、倫理観)

[DP 6] 互いの立場を尊重し、意欲的に他者と協働関係を築くことができる。(チームワーク)

■技能・表現

[DP 7] 専門知識を、食料・生命・環境に関わる諸問題の解決に向けて実践的に活用することができる。(実践力)

[DP 8] 日本語や英語などによる円滑なコミュニケーション能力をもち、自分の考えを論理的に口頭や文章で発表し、討論できる能力を有している。(コミュニケーション力)

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法

<https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/agri/biological-science/>)

(概要) カリキュラム・ポリシー (CP: 教育課程編成・実施の方針)
ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、次のとおり教育課程を編成・実施します。

[CP 1]

豊かな人間性を育み、人や社会を理解するための幅広い教養を身につけるため、教養科目(語学系、情報系、体育系、人文系、社会系、自然系)を配置する。[知識・理解・思考・判断・関心・意欲・態度・技能・表現]

[CP 2]

自分の人生を自らが主体的に構築・設計するとともに、チームで協働する力を育み、社会で活躍するために、「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」「インターンシップ基礎・実践」などの科目を教養科目(キャリア系、地域志向系、教養特別系)として配置する。[知識・理解・思考・判断・関心・意欲・態度・技能・表現]

[CP 3]

農学を学ぶために必要な知識・技能・態度を身につけるため、「農学概論」「農学基礎演習」を配置するとともに、地球規模や未来志向の視点から農学を幅広く学ぶため、「グローバル農業演習」「スマート農業演習」「農業知的財産」などの科目を専門科目・共通群

として配置する。〔知識・理解・思考・判断・関心・意欲・態度・技能・実践力〕

〔CP4〕

生物・生命の諸現象とその原理を学修するうえで必要な基礎力を身につけるため、「化学」「生物学Ⅰ・Ⅱ」「生物統計学」などの科目を専門科目・専門コア群（基礎系）として配置する。〔知識・理解・思考・判断〕

〔CP5〕

植物の諸現象とその原理やメカニズムを学修し、食料・生命・環境にかかわる諸課題の解決に資する能力を身につけるため、「植物分子生理学Ⅰ・Ⅱ」「ゲノム分子生物学Ⅰ・Ⅱ」「ゲノム機能学」などの科目を専門科目・専門コア群（植物系）として配置する。〔知識・理解・思考・判断・関心・意欲〕

〔CP6〕

微生物の諸現象とその原理やメカニズムを学修し、食料・生命・環境にかかわる諸課題の解決に資する能力を身につけるため、「応用微生物学」「植物共生微生物学」「共生ウイルス学」などの科目を専門科目・専門コア群（微生物系）として配置する。〔知識・理解・思考・判断・関心・意欲〕

〔CP7〕

動物や水棲生物の諸現象とその原理やメカニズムを学修し、食料・生命・環境にかかわる諸課題の解決に資する能力を身につけるため、「動物機能学」「魚類学」「生体防御学」などの科目を専門科目・専門コア群（動物・海洋生物系）として配置する。〔知識・理解・思考・判断・関心・意欲〕

〔CP8〕

自らの知的関心・興味や将来の専門的活動分野等に応じて、基幹科目を通じて得られた専門的知識・分析能力をさらに深化・発展させるため、農業生産学に関わる科目を専門科目・専門コア群（農業系）として配置する。〔知識・理解・思考・判断・関心・意欲〕

〔CP9〕

生物や生命が示す諸現象に対する探究心と深い理解力・考察力を身につけるとともに、食料・生命・環境にかかわる諸課題に対する実践的な対応能力を修得するため、「化学実験」「応用生物科学基礎実験Ⅰ」「応用生物科学専門実験Ⅰ」などの科目を専門科目・専門コア群（実験・実習系）として配置する。〔知識・理解・思考・判断・関心・意欲・態度・技能・表現・実践力〕

〔CP10〕

食料・生命・環境にかかわる諸問題に対して多元的な視点と広い知識をもち、生物科学の視点からの問題解決に資する能力を身につけるため、農業の生産プロセスに関わる科目（農業生産系）、食品と栄養に関わる科目（食品栄養系）、食農ビジネスに関わる科目（食農ビジネス系）を専門科目・専門総合群として配置する。〔知識・理解・思考・判断・関心・意欲・態度・技能・実践力〕

〔CP11〕

生物・生命への関心・意欲を高め、主体的な学修態度を身につけるため、「基礎ゼミナール」を配置し、課題の発見と解決のために必要な研究計画とその研究生活態度、並びに情報の収集・発信力を身につけるため、「応用生物科学研究」「卒業研究」の科目を専門科目・ゼミ・卒業研究として配置する。〔知識・理解・思考・判断・関心・意欲・態度・技能・表現・実践力〕

入学者の受入れに関する方針

（公表方法

<https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/agri/biological-science/>)

<p>(概要) アドミッション・ポリシー (A P : 入学者受入れの方針) 本学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを理解し、次に掲げる知識・技能・意欲などを備え、入学後は学修・課外活動に主体的に取り組む人を求めます。</p> <p>■知識・理解 [A P 1] 高校までの生物、化学、数学、国語、英語の基礎知識を身につけている。</p> <p>■思考・判断 [A P 2] 問いに対して筋道を立てて思考し、解答を得ることができる。</p> <p>■関心・意欲・態度 [A P 3] 生物や生命現象などに興味を有している。 [A P 4] 勉学や課外活動で主体的に活動した経験を有する。</p> <p>■技能・表現 [A P 5] 他者の意見を聴き、自分の意思を口頭または文章により論理的に表現して相手に伝えることができる。</p>

<p>学部等名 農学部 食品栄養学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法: 本学ウェブサイト https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/agri/food-nutrition/)</p>
<p>(概要) 農学の学びを基盤として、食のプロセス(農産物の生産から加工・流通・消費まで)を体系的に理解し、食・栄養・健康・医療・食育の専門的知識・技能・態度を身につけ、地域の健康と心豊かな暮らしの実現に貢献できる人材を養成する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法 https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/agri/food-nutrition/)</p>
<p>(概要) ディプロマ・ポリシー (D P : 卒業認定・学位授与の方針) 本学科の課程を修め、所定の単位を修得したうえで、次の要件を満たした者に学士(農学)の学位を授与します。</p> <p>■知識・理解 [D P 1] 豊かな人間性と人や社会を理解するための幅広い教養を身につけている。(基礎的教養) [D P 2] 「農学」の幅広い知識を兼ね備え、「食・栄養・健康・医療・食育」に関する専門的知識を身につけている。(専門的知識)</p> <p>■思考・判断 [D P 3] 「食・栄養・健康・医療・食育」に関する諸課題に対し、広く多角的に情報を収集し、科学的根拠に基づき、解決できる能力を身につけている。(問題解決力) [D P 4] 多角的な観点から柔軟かつ公正に思考し判断するための基本的な論理的思考能力を身につけている。(論理的思考力)</p> <p>■関心・意欲・態度 [D P 5] 高い倫理性をもって、「食・栄養・健康・医療・食育」に関心をもち、継続的に取り組む探究心と意欲を有している。(学習意欲・態度、倫理観) [D P 6] 互いの立場を尊重し、意欲的に他者と協働関係を築くことができる。(チームワーク)</p> <p>■技能・表現 [D P 7] 専門知識を、「食・栄養・健康・医療・食育」の観点から、課題解決に向けて実践的に活用することができる。(実践力) [D P 8] 日本語や英語などによる円滑なコミュニケーション能力をもち、自分の考えを論理的に口頭や文章で発表し、討論できる能力を有している。(コミュニケーション力)</p>

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法

<https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/agri/food-nutrition/>)

(概要) カリキュラム・ポリシー (CP: 教育課程編成・実施の方針)

ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、次のとおり教育課程を編成・実施します。

[CP1]

豊かな人間性を育み、人や社会を理解するための幅広い教養を身につけるため、教養科目(語学系、情報系、体育系、人文系、社会系、自然系)を配置する。[知識・理解・思考・判断・関心・意欲・態度・技能・表現]

[CP2]

自分の人生を自らが主体的に構築・設計するとともに、チームで協働する力を育み、社会で活躍するため、「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」「インターンシップ基礎・実践」などの科目を、チーム医療の重要性を理解するとともに、他の医療系職種とのコミュニケーション力を身につけるため、医療人多職種連携教育(IPE)科目「臨床医療演習」「セルフメディケーション演習」などの科目を教養科目(キャリア系、地域志向系、教養特別系)として配置する。[知識・理解・思考・判断・関心・意欲・態度・技能・表現]

[CP3]

農学を学ぶために必要な知識・技能・態度を身につけるため、「農学概論」「農学基礎演習」を配置するとともに、地球規模や未来志向の視点から農学を幅広く学ぶため、「グローバル農業演習」「スマート農業演習」「農業知的財産」などの科目を専門科目・共通群として配置する。[知識・理解・思考・判断・関心・意欲・態度・技能・実践力]

[CP4]

専門科目を学修していくために必要な基礎力を身につけるため、「生物学」「化学」などの科目を専門科目・専門コア群(基礎系)として配置する。[知識・理解・思考・判断]

[CP5]

「食」を通して地域住民の健康生活と福祉の向上に貢献できる能力を身につけるため、「公衆衛生学」「健康管理概論」などの科目を専門科目・専門コア群(社会・環境と健康分野)として配置する。[知識・理解・思考・判断・関心・意欲]

[CP6]

人体の構造と機能、疾病および病態に関する知識・技能を身につけるため、「解剖生理学」「解剖生理学実習」「臨床医学概論」「臨床病態学」などの科目を専門科目・専門コア群(人体の構造と機能及び疾病の成り立ち分野)として配置する。[知識・理解・思考・判断・関心・意欲・態度・技能・表現力]

[CP7]

食材を自然の恵みとして捉える高い倫理観を抱き、豊かな食生活を実現するために必要な食文化、食品学的、調理科学的知識・技能を身につけるため、「調理学」「調理学実習Ⅰ・Ⅱ」「食品学総論」「食品学各論」「食品学実験Ⅰ・Ⅱ」などの科目を専門科目・専門コア群(食べ物と健康分野)として配置する。[知識・理解・思考・判断・関心・意欲・態度・技能・表現力]

[CP8]

豊かな食生活を実現するために必要な食事摂取基準、ライフステージ別の栄養管理の知識、技能を身につけるため、「基礎栄養学」「基礎栄養学実習」「応用栄養学Ⅰ～Ⅲ」「応用栄養学実習」の科目を専門科目・専門コア群(基礎栄養学・応用栄養学分野)として配置する。[知識・理解・思考・判断・関心・意欲・態度・技能・表現力]

[CP9]

食と栄養と健康の観点から、健常者、傷病者に対する栄養指導・栄養管理の専門的知識・技能を身につけるため、「栄養教育論Ⅰ～Ⅲ」「臨床栄養学Ⅰ～Ⅳ」「公衆栄養学Ⅰ・Ⅱ」「給食経営管理論Ⅰ・Ⅱ」およびそれぞれの実習、演習などの科目を専門科目・専門コア群(栄養教育論・臨床栄養学・公衆栄養学・給食経営管理論・総合演習・臨地実習分野)

<p>として配置する。[知識・理解・思考・判断・関心・意欲・態度・技能・実践力]</p> <p>[CP10]</p> <p>食料・生命・環境にかかわる諸問題に対して多面的な視点と広い知識をもち、食品栄養学の視点からの問題解決に資する能力を身につけるため、農業の生産プロセスに関わる科目（農業生産系）、生物科学に関わる科目（応用生物系）、食農ビジネスに関わる科目（食農ビジネス系）を専門科目・専門総合群として配置する。[知識・理解・思考・判断・関心・意欲・態度・技能・実践力]</p> <p>[CP11]</p> <p>食品・栄養への関心・意欲を高め、主体的な学修態度を身につけるため、「基礎ゼミナール」を配置し、課題の発見と解決のために必要な研究計画とその研究生活態度、情報の収集・発信力および栄養学の総合力を身につけるため、「食品栄養学研究」「卒業研究」の科目を専門科目・ゼミ・卒業研究として配置する。[知識・理解・思考・判断・関心・意欲・態度・技能・実践力]</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法)</p> <p>https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/agri/food-nutrition/</p>
<p>(概要) アドミッション・ポリシー (AP: 入学者受入れの方針)</p> <p>本学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを理解し、次に掲げる知識・技能・意欲などを備え、入学後は学修・課外活動に主体的に取り組む人を求めます。</p> <p>■知識・理解</p> <p>[AP1] 高校までの生物、化学、数学、国語、英語の基礎知識を身につけている。</p> <p>■思考・判断</p> <p>[AP2] 問いに対して筋道を立てて思考し、解答を得ることができる。</p> <p>■関心・意欲・態度</p> <p>[AP3] 食、栄養、健康・医療、食育などに興味を有している。</p> <p>[AP4] 勉学や課外活動で主体的に活動した経験を有する。</p> <p>■技能・表現</p> <p>[AP5] 他者の意見を聴き、自分の意思を口頭または文章により論理的に表現して相手に伝えることができる。</p>

<p>学部等名 農学部 食農ビジネス学科</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法: 本学ウェブサイト)</p> <p>https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/agri/food-agriculture/</p>
<p>(概要) 農業や食料、食品産業に関する経済・経営・マーケティングなどの専門知識を身につけ、国内外に存在する食料・農業に関する社会経済的な諸課題の解決に向けて、それらの知識を理論的・実践的に活用して貢献できる人材を養成する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針</p> <p>(公表方法)</p> <p>https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/agri/food-agriculture/</p>
<p>(概要) ディプロマ・ポリシー (DP: 卒業認定・学位授与の方針)</p> <p>本学科の課程を修め、所定の単位を修得したうえで、次の要件を満たした者に学士(農学)の学位を授与します。</p> <p>■知識・理解</p> <p>[DP1] 豊かな人間性と人や社会を理解するための幅広い教養を身につけている。(基礎的教養)</p> <p>[DP2] 国内外の農業や食品産業に関する経済・経営・マーケティングの専門的知識を</p>

身につけている。(専門的知識)

■思考・判断

[DP 3] 国内外の食料・農業に関する社会経済的諸課題に対し、広く多角的に情報を収集し、科学的根拠に基づき、解決できる能力を身につけている。(問題解決力)

[DP 4] 多角的な観点から柔軟かつ公正に思考し判断するための基本的な論理的思考能力を身につけている。(論理的思考力)

■関心・意欲・態度

[DP 5] 高い倫理性をもって、農業や食品産業の課題に対して、継続的に取り組む探究心と意欲を有している。(学習意欲・態度、倫理観)

[DP 6] 互いの立場を尊重し、意欲的に他者と協働関係を築くことができる。(チームワーク)

■技能・表現

[DP 7] 専門知識を、現代の食料・農業の諸課題の解決に向けて実践的に活用することができる。(実践力)

[DP 8] 日本語や英語などによる円滑なコミュニケーション能力をもち、自分の考えを論理的に口頭や文章で発表し、討論できる能力を有している。(コミュニケーション力)

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法

<https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/agri/food-agriculture/>)

(概要) カリキュラム・ポリシー (CP: 教育課程編成・実施の方針)

ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、次のとおり教育課程を編成・実施します。

[CP 1]

豊かな人間性を育み、人や社会を理解するための幅広い教養を身につけるため、教養科目(語学系、情報系、体育系、人文系、社会系、自然系)を配置する。[知識・理解・思考・判断・関心・意欲・態度・技能・表現]

[CP 2]

自分の人生を自らが主体的に構築・設計するとともに、チームで協働する力を育み、社会で活躍するために、「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」「インターンシップ基礎・実践」などの科目を教養科目(キャリア系、地域志向系、教養特別系)として配置する。[知識・理解・思考・判断・関心・意欲・態度・技能・表現]

[CP 3]

農学を学ぶために必要な知識・技能・態度を身につけるため、「農学概論」「農学基礎演習」を配置するとともに、地球規模や未来志向の視点から農学を幅広く学ぶため、「グローバル農業演習」「スマート農業演習」「農業知的財産」などの科目を専門科目・共通群として配置する。[知識・理解・思考・判断・関心・意欲・態度・技能・実践力]

[CP 4]

社会科学的な視点から食料や農業に関して専門的に学修していくために必要な基礎的な知識と考え方、研究に必要な基本的な手法を身につけるため、「基礎経済学」「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「食と農の倫理」「食と農の近現代史」「基礎統計学」「社会調査論」などの科目を専門科目・専門コア群(基礎系)として配置する。[知識・理解・思考・判断・関心・意欲・態度・倫理観]

[CP 5]

農業経営や農村地域のマネジメント、食料・農業・農村政策などに関する専門的な知識と理論、農業経営や農村地域の抱える諸課題の解決に資する実践的な能力を身につけるため、「農業経営学」「食料・農業・農村政策論」「地域マネジメント論」「6次産業経営論」などの科目を専門科目・専門コア群(農業経済・経営・政策系)として配置する。[知識・理解・思考・判断・関心・意欲・態度・実践力]

[CP 6]

食品産業や食料・農水産物の市場・流通、食品産業のマーケティングや経営戦略などに関

する専門的な知識と理論、食品産業や食料・農水産物の流通が抱える諸課題の解決に資する実践的な能力を身につけるため、「食品産業論」「食料・農業市場論」「農畜産物流通論」「水産物流通論」などの科目を専門科目・専門コア群（食品産業・流通系）として配置する。[知識・理解・思考・判断・関心・意欲・態度・実践力]

[CP7]

食と農の共生、都市と農村の共生、循環型農業システム、食農教育などに関する専門的な知識と理論、これからの食と農の関係のあり方を実践的に考える能力を身につけるため、「食農共生論」「循環型農業論」「食農教育論」「協同組合論」などの科目を専門科目・専門コア群（食農共生・循環型農業系）として配置する。[知識・理解・思考・判断・関心・意欲・態度・実践力]

[CP8]

世界の食料・農業の動向や現状に関する専門的な知識と理論、世界の食料・農業が抱える諸課題の解決に資する実践的な能力を身につけるため、「比較農業論」「国際農業論」「農業開発論」などの科目を専門科目・専門コア群（国際農業系）として配置する。[知識・理解・思考・判断・関心・意欲・態度・実践力]

[CP9]

食料・生命・環境にかかわる諸問題に対して多元的な視点と広い知識をもち、食農ビジネス学の視点からの問題解決に資する能力を身につけるため、農業の生産プロセスに関わる科目（農業生産系）、生物科学に関わる科目（応用生物系）、食品と栄養に関わる科目（食品栄養系）を専門科目・専門総合群として配置する。[知識・理解・思考・判断・関心・意欲・態度・技能・実践力]

[CP10]

食農ビジネスに関する関心・意欲を高め、主体的な学習態度を身につけるため、「基礎ゼミナール」を配置し、課題の発見と解決のために必要な理論や研究計画、研究生活態度、並びに情報の収集・発信力を身につけるため、「食農ビジネス学基礎演習Ⅰ」「食農ビジネス学研究Ⅰ」「卒業研究」などの科目を専門科目・ゼミ・卒業研究として配置する。[知識・理解・思考・判断・関心・意欲・態度・技能・表現・実践力]

入学者の受入れに関する方針

（公表方法

<https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/agri/food-agriculture/>)

（概要）アドミッション・ポリシー（AP：入学受入れの方針）

本学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを理解し、次に掲げる知識・技能・意欲などを備え、入学後は学修・課外活動に主体的に取り組むことを求めます。

■知識・理解

[AP1] 高校までの社会、数学、国語、英語の基礎知識を身につけている。

■思考・判断

[AP2] 問いに対して筋道を立てて思考し、解答を得ることができる。

■関心・意欲・態度

[AP3] 食料、食品産業、農業政策などに興味を有している。

[AP4] 勉学や課外活動で主体的に活動した経験を有する。

■技能・表現

[AP5] 他者の意見を聴き、自分の意思を口頭または文章により論理的に表現して相手に伝えることができる。

学部等名 外国語学部 外国語学科【2022年4月1日募集停止】

教育研究上の目的

（公表方法：本学ウェブサイト

<https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/foreign/>)

(概要) 外国語と日本語によるコミュニケーション能力および異文化と日本の文化に対する理解を涵養し、人間力・実践力・統合力を身につけた、異文化接触の現場で活躍できる知的専門職業人を養成する。

卒業又は修了の認定に関する方針

(公表方法 <https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/foreign/>)

(概要) ディプロマ・ポリシー (DP: 卒業認定・学位授与の方針)
本学科の課程を修め、所定の単位を修得したうえで、次の要件を満たした者に学士(文学)の学位を授与します。

■知識・理解

[DP 1] 言語と文化が果たす役割や機能に基づいて、人間社会の学術的考察に必要な知識やリテラシーを身につけている。(一般教養と専門教育の基礎知識)

[DP 2] グローバルな視点で国際社会の多様性を理解するとともに、世界と日本の関係について人文・社会学的研究を行うための専門知識を身につけている。(人文・社会分野の国際的専門知識)

■思考・判断

[DP 3] 言語・文化・国際社会における問題を発見し、その解決に必要な情報の収集、分析、結論に至るまでの追究の計画・立案にかかる思考力と判断力を身につけている。(計画・立案力)

[DP 4] 課題に対する計画的な解決策に基づいて、論理的な思考および多面的・多角的な判断を行うことができる。(問題解決力)

■関心・意欲・態度

[DP 5] 問題解決のために他者と協調して活動するとともに、社会的規範やマナーを遵守して行動することができる。(チームワーク・倫理観)

[DP 6] 課題や問題の解決のために必要な事柄について、主体的かつ継続的に学ぶ意欲や態度を身につけている。(学習意欲・態度)

■技能・表現

[DP 7] <英語プロフェッショナルコース>

国際社会において円滑なコミュニケーションを可能にするような高いレベルの英語の4技能(聞く、話す、読む、書く)を身につけている。

<国際キャリアコース>

各専攻言語(英語、スペイン語、中国語、インドネシア・マレー語)について日本語と比較しながら学び、将来のキャリアにつながるようなコミュニケーション能力を身につけている。(コミュニケーション力)

[DP 8] <英語プロフェッショナルコース>

必修となっている海外留学の経験なども含めて、英語での議論やプレゼンテーションをしっかり行うことができる表現力を身につけている。

<国際キャリアコース>各専攻言語圏(英語圏、スペイン語圏、中国語圏、インドネシア・マレー語圏)などの言語はもとより文化や歴史についても日本(語)と比較しながら学び、調査や発表を行う技能や表現力を身につけている。(発表力・調査力)

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法 <https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/foreign/>)

(概要) カリキュラム・ポリシー (CP: 教育課程編成・実施の方針)

ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、次のとおり教育課程を編成・実施します。

■知識・理解

[CP 1] 人間社会において言語と文化が果たす役割や機能などについての知識を習得するために、1年次にはその導入として基礎科目の「英語」「情報処理」など、2年次から3年次にかけては基礎科目の「英語」「中国語」「スペイン語」「インドネシア語」「韓国

語」「フランス語」「時事問題」、教養科目の「心理学」「世界の政治」「自然科学の理解」などを段階的に配当する。

[CP2] グローバルな視点で国際社会の多様性を理解し、日本に関する人文・社会的知識を習得するために、1年次にはその導入として文化・社会科目の「各語圏概論」「言語学」「日本文学」など、2年次には文化・社会科目の「異文化接触論」「国際社会論」やパッケージプログラム科目の「ホスピタリティ論」「メディア文化論」、そして3年次には文化・社会科目の「ヨーロッパ史学」「現代学術論」やパッケージプログラム科目の「ビジネスコミュニケーション論」「グローバル社会と日本」などを段階的に配当する。

■思考・判断

[CP3] 思考力と判断力に基づいて問題を発見し、その解決に必要な情報の収集・分析・結論に至るまでの研究過程を計画・立案する力を養成するため、1年次から4年次にかけてゼミおよび卒業研究を段階的に配当する。

[CP4] 課題に対する計画的な解決策に基づいて、論理的な思考力および多面的・多角的な判断力を養成するために、1年次から4年次にかけてゼミおよび卒業研究を段階的に配当する。

■関心・意欲・態度

[CP5] 問題解決のために他者と協調して活動することや、社会的規範やマナーを遵守して行動することを身につけるために、1年次から4年次にかけてゼミおよび卒業研究を段階的に配当する。

[CP6] 課題や問題の解決のために必要な事柄について、主体的かつ継続的に学ぶ意欲や態度を身につけるために、1年次から4年次にかけてゼミおよび卒業研究を段階的に配当する。

■技能・表現

[CP7-1] <英語プロフェッショナルコース>

国際社会において円滑なコミュニケーションを可能にするような高いレベルの英語の4技能（聞く、話す、読む、書く）を身につけるために、1年次にはその導入として「ボキャブラリー&グラマー」「スピーキング&ライティング」など、2年次前期には「Practical English Conversation」「Integrated Skills Training」など、そして2年次後期にはコース所属の全員が英語圏の大学に海外留学する。帰国後の3年次には「English for Global Communication」「Comprehensive English」など、さらに4年次には「Oral Communication」などを段階的に配当する。

[CP7-2] <国際キャリアコース>

各専攻言語（英語、スペイン語、中国語、インドネシア・マレー語）について日本語と比較しながら学び、将来のキャリアにつながるようなコミュニケーション能力を身につけるために、1年次にはその導入として「中国語を聞く/読む/書く/話す」「スペイン語入門」「インドネシア語入門」など、2年次には「スペイン語文章構成」「総合インドネシア語」など、3年次には「スペイン語通訳」「実践インドネシア・マレー語」など、さらに4年次には「中国語コミュニケーション」「スペシャリストインドネシア・マレー語」などを段階的に配当する。

[CP8-1] <英語プロフェッショナルコース>

英語での議論やプレゼンテーションをしっかりと行うことができる表現力を身につけるために、1年次にはその導入として「プレゼンテーション」「トピックスタディーズ」など、2年次前期には「Global Issues」「Academic Reading/Writing」など、そして2年次後期にはコース所属の全員が英語圏の大学に海外留学する。帰国後の3年次には「English Lecture」「Debate & Presentation」など、さらに4年次には「Advanced English」などを段階的に配当する。

[CP8-2] <国際キャリアコース>

各専攻言語圏（英語圏、スペイン語圏、中国語圏、インドネシア・マレー語圏）などの言語はもとより文化や歴史についても日本（語）と比較しながら学び、調査や発表を行う技能や表現力を身につけるために、1年次にはその導入として「ビジネス中国語」「ドラマ」など、2年次には「メディアイングリッシュ」「観光中国語」「旅行インドネシア語」な

<p>ど、3年次には「貿易中国語」「映画/メディアのスペイン語」「時事インドネシア・マレー語」など、さらに4年次には「ビジネスイングリッシュ」「スペイン語プレゼンテーション」などを段階的に配当する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法 https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/foreign/)</p>
<p>(概要) アドミッション・ポリシー (A P : 入学者受入れの方針) 本学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを理解し、次に掲げる知識・技能・意欲などを備え、入学後は学修・課外活動に主体的に取り組む人を求めます。</p> <p>■知識・理解 [A P 1] 外国語学部で学ぶ諸科目の前提となる「英語」や「国語」などの科目を中心に、高等学校の教育課程を幅広く修得し、基礎的教養を身につけている。</p> <p>■思考・判断 [A P 2] 論理的な思考力や、多面的・多角的な判断力の基礎となる文章読解力・記述力および表現力を身につけている。</p> <p>■関心・意欲・態度 [A P 3] 言語や文化に関心を持ち、大学で学んだ語学や社会・文化論などを自分の将来のキャリアに活かしたいという意欲があり、またそれらを主体的かつ協動的に学ぶ姿勢・態度を身につけている。</p> <p>■技能・表現 [A P 4] 外国語学部の教育の柱である語学力を養成するために、語学検定試験などに積極的に取り組む姿勢やその実績、およびコミュニケーション能力の基礎を身につけている。</p>

<p>学部等名 経営学部 経営情報学科 【2022年4月1日募集停止】</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：本学ウェブサイト https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/management/management-information/)</p>
<p>(概要) 企業経営に関する情報の収集、分析、活用のための知識と技能を身につけるとともに、幅広い教養をあわせ持ち、自律的・主体的に企業経営の一翼を担うことのできる実行力ある知的専門職業人を養成する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法 https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/management/management-information/)</p>
<p>(概要) ディプロマ・ポリシー (D P : 卒業認定・学位授与の方針) 本学科の課程を修め、所定の単位を修得したうえで、次の要件を満たした者に学士(経営学)の学位を授与します。</p> <p>■知識・理解 [D P 1] 社会人として必要な教養と知的専門職業人として活躍するための基盤となるマーケティング・経営情報技術などの経営諸科学に関する基礎知識を身につけている。(一般教養・基礎的経営専門知識)</p> <p>■思考・判断 [D P 2] 企業を含む組織における一連の意思決定プロセスにおいて必要となる、 ①問題発見能力 ②問題解決に向け必要となる情報の収集・選別・分析力 ③それらを踏まえた計画の立案と実施に係る思考力・判断力・実践力を身につけている。</p>

(問題発見能力、情報の収集力と分析力、実践力)

■ 関心・意欲・態度

[DP 3] 社会・組織の規範を守り、組織の一員として主体的かつ協働して組織の価値向上に努める態度と意欲を身につけている。(社会規範、多様性の理解、チームワークとリーダーシップ)

[DP 4] 企業を含む組織が直面する問題に関心をもち、それらの問題解決に主体的に取り組む姿勢を身につけている。(グローバルかつ地域社会への関心、問題解決に取り組む態度、問題解決に必要な知識・スキル修得への意欲)

■ 技能・表現

[DP 5] ビジネス・パーソンとして活躍するための前提となるコミュニケーション能力と ICT 活用能力を身につけている。(コミュニケーションおよび情報に関するリテラシー)

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法

<https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/management/management-information/>)

(概要) カリキュラム・ポリシー (CP: 教育課程編成・実施の方針)

ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、次のとおり教育課程を編成・実施します。

■ 知識・理解

[CP 1] 企業社会で活躍し、また貢献・奉仕することができる幅広い教養とグローバルな視野をもつビジネス・パーソンを育成するため、外国語系、人文科学系・社会科学系・地域志向系などの教養科目群、卒業後の人生設計を念頭におき大学 4 年間で修得すべきキャリアデザイン系科目および企業経営に密接に関連する法律科目群を配置する。

[CP 2] マーケティングおよびビジネス IT に関する専門知識をステップアップ方式で修得するため、1 年次から 2 年次にかけて専門基礎科目群を、(1) マーケティングコースおよび (2) ビジネス IT コースのいずれかのコースを選択する 2 年次からは各コース固有科目群を、3 年次からは応用科目群を配置する。

■ 思考・判断

[CP 3] 問題発見能力、情報の収集・選別・分析力を身につけるため、1 年次から 2 年次にかけて専門基礎科目群、2 年次からはマーケティングコースおよびビジネス IT コースに関する各コース固有科目群をそれぞれ専門科目として配置する。

[CP 4] 企業経営の意思決定に際して必要となる思考力・判断力・実践力を身につけるため、3 年次から理論科目との双方向での同時学修を念頭においた応用・実践科目群を専門科目として配置する。

■ 関心・意欲・態度

[CP 5] 社会規範を順守し、また多様性が理解でき、協調性とリーダーシップといった資質を身につけるため、法律科目群および少人数で行われる「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」、「卒業研究」を配置する。

[CP 6] 常に企業社会に関心の目を向け、課題解決に自ら進んで取り組み、また課題解決に必要な知識とスキルの修得に意欲をもやす態度・姿勢を身につけるため、少人数で行われる「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」、「卒業研究」を配置する。

■ 技能・表現

[CP 7] 企業活動において必須なコミュニケーション能力と情報に関するリテラシーを修得するため、少人数で行われる「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」、「卒業研究」を配置する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法

<https://www.setsunan.ac.jp/faculty/teaching/policy/management/management-information/>)

(概要) アドミッション・ポリシー (A P : 入学者受入れの方針)

本学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを理解し、次に掲げる知識・技能・意欲などを備え、入学後は学修・課外活動に主体的に取り組む人を求めます。

■知識・理解

[A P 1] 経営学部で学ぶ諸科目を修得するために必要な基礎的教養・知識である「国語」、「英語」、「地理歴史」、「公民」、「数学」などの高等学校の教育課程を幅広く修得している。

■思考・判断

[A P 2] 「国語」、「英語」の読解力に基づいて、論理的に思考・分析し、その結果を解釈する基礎的能力を有している。

[A P 3] 「数学」の解析力に基づいて、論理的に思考・分析し、その結果を解釈する基礎的能力を有している。

■関心・意欲・態度

[A P 4] 「地理歴史」、「公民」の学修を通じて、現代の企業が抱える多様な諸課題に関心を持ち、経営に関する専門知識と情報スキルの向上に意欲があり、その目標達成に向け、自ら進んで学修することができる。

[A P 5] 課外活動やボランティア活動に、他者と協働して、主体的に取り組んだ経験がある。

[A P 6] ディプロマ・ポリシーを理解し、本学科への入学を強く希望している。

■技能・表現

[A P 7] 他者との交流を通じて自分自身を成長させることのできるコミュニケーション能力を有している。

[A P 8] 取得した資格やスポーツの経験などを通じて特定の分野において自慢できる能力や技能を有している。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.setsunan.ac.jp/about/introduction/organization/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
理工学部	—	44人	22人	7人	3人	0人	76人
国際学部	—	14人	13人	10人	0人	0人	37人
経営学部	—	9人	9人	4人	1人	0人	23人
薬学部	—	24人	13人	19人	11人	2人	70人
法学部	—	11人	10人	0人	0人	0人	21人
経済学部	—	11人	8人	1人	0人	0人	21人
看護学部	—	12人	9人	9人	9人	0人	39人
農学部	—	30人	13人	6人	8人	4人	62人
現代社会学部	—	10人	6人	3人	2人	0人	21人
教養部（一般教育）	—	1人	3人	1人	1人	0人	6人
その他	—	3人	3人	11人	2人	0人	19人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		522人					522人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：研究者総覧 https://gyoseki.setsunan.ac.jp/search?m=home&l=ja					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
理工学部	585人	554人	94.7%	2,400人	2,290人	95.4%	30人	人
外国語学部					33人			
国際学部	250人	282人	112.8%	1,010人	991人	98.1%	5人	人
経営学部	280人	318人	113.6%	1,132人	1,244人	109.9%	6人	人
薬学部	220人	223人	101.4%	1,320人	1,312人	99.4%	0人	人
法学部	280人	285人	101.8%	1,130人	1,183人	104.7%	5人	人
経済学部	280人	327人	116.8%	1,128人	1,199人	106.3%	4人	人
看護学部	100人	108人	108.0%	400人	419人	104.8%	0人	人
農学部	340人	369人	108.5%	1,360人	1,376人	101.2%	0人	人
現代社会学部	250人	272人	108.8%	750人	777人	103.6%	0人	人
合計	2,585人	2,738人	105.9%	10,630人	10,824人	101.8%	50人	人
（備考）外国語学部は2022年度から国際学部へ改組したため入学者は未記入。現代社会学部は2023年度開設。現代社会学部の収容定員は年次進行に応じた収容定員としている。								

b. 卒業生数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
法学部	231人 (100%)	4人 (1.7%)	210人 (90.9%)	17人 (7.4%)
外国語学部	165人 (100%)	1人 (0.6%)	143人 (86.7%)	21人 (12.7%)
経済学部	245人 (100%)	0人 (0%)	236人 (96.3%)	9人 (3.7%)
経営学部	233人 (100%)	0人 (0%)	215人 (92.3%)	18人 (7.7%)
理工学部	459人 (100%)	59人 (12.9%)	383人 (83.4%)	17人 (3.7%)
薬学部	188人 (100%)	1人 (0.5%)	176人 (93.6%)	11人 (5.9%)
看護学部	90人 (100%)	0人 (0%)	88人 (97.8%)	2人 (2.2%)
農学部	269人 (100%)	19人 (7.1%)	239人 (88.8%)	11人 (4.1%)
合計	1,880人 (100%)	84人 (4.5%)	1,690人 (89.9%)	106人 (5.6%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 摂南大学大学院、大阪大学大学院、奈良先端科学技術大学院 国立病院機構、大阪府警察本部、大阪シティ信用金庫、大和ハウス工業(株)、山崎製パン(株)				
(備考) 国際学部は2022年度改組、現代社会学部は2023年度開設のため該当なし。				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
理工学部	566人 (100%)	399人 (70.5%)	100人 (17.7%)	67人 (11.8%)	(%)
外国語学部	192人 (100%)	147人 (76.6%)	28人 (14.6%)	17人 (8.9%)	(%)
経営学部	271人 (100%)	208人 (76.8%)	38人 (14.0%)	25人 (9.2%)	(%)
薬学部	219人 (100%)	155人 (70.8%)	39人 (17.8%)	25人 (11.4%)	(%)
法学部	273人 (100%)	214人 (78.4%)	32人 (11.7%)	27人 (9.9%)	(%)
経済学部	279人 (100%)	221人 (79.2%)	34人 (12.2%)	24人 (8.6%)	(%)
看護学部	99人 (100%)	87人 (87.9%)	7人 (7.1%)	5人 (5.1%)	(%)
農学部	299人 (100%)	260人 (87.0%)	15人 (5.0%)	24人 (8.0%)	(%)
合計	2,198人 (100%)	1,691人 (76.9%)	293人 (13.3%)	214人 (9.7%)	(%)
(備考) 転学部対象者3名 薬学部から農学部へ1名、法学部から経済学部へ1名、看護学部から経営学部へ1名 薬学部(修業年限6年⇒2019年度入学生が回答対象)から農学部(修業年限4年⇒2021年度入学生が回答対象)への転学部生は2021年度入学生のため、薬学部の数は減らさず農学部の数を増やしている。					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
<p>当該授業科目の開講前年度の1月までに授業担当者が授業計画（シラバス）を作成し、授業開講学科の学科長承認および授業開講責任者である学部長の承認を経て、3月下旬にホームページで公表している。</p> <p>授業計画（シラバス）には、「授業概要・目的」「到達目標」「授業方法と留意点」「アクティブラーニングの形式」「科目学習の効果（資格）」「関連科目」「授業計画（各回の授業テーマ、内容・方法等、事前・事後学修の時間および内容）」「教科書・参考書」「評価方法（基準）」「担当者の研究室等」などを記載している。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
<p>成績標語は、授業科目ごとに定めた方法と基準により行い、100点満点で60点以上を合格として単位認定をしている。</p> <p>また、GPA制度を導入し、入学時からの累積GPAが1.3以上を卒業要件として設定している。</p>				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
理工学部	生命科学科	124 単位	有	48 単位
	住環境デザイン学科	124 単位	有	48 単位
	建築学科	124 単位	有	48 単位
	機械工学科	124 単位	有	48 単位
	電気電子工学科	124 単位	有	48 単位
	都市環境工学科	124 単位	有	48 単位
外国語学部	外国語学科	124 単位	有	48 単位
国際学部	国際学科	124 単位	有	48 単位
経営学部	経営学科	124 単位	有	46 単位
	経営情報学科	124 単位	有	46 単位
薬学部	薬学科	186 単位	有	48 単位
法学部	法律学科	124 単位	有	48 単位
経済学部	経済学科	124 単位	有	48 単位
看護学部	看護学科	128 単位	有	48 単位
農学部	農業生産学科	124 単位	有	48 単位
	応用生物科学科	124 単位	有	48 単位
	食品栄養学科	124 単位	有	48 単位
	食農ビジネス学科	124 単位	有	48 単位
現代社会学部	現代社会学科	124 単位	有	1・2年次：44 単位 3・4年次：48 単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		<p>GPAにより次の2点の制度を設けている。</p> <p>① 履修申請可能単位数の上限を緩和</p> <p>② 卒業に必要なGPA値（1.3以上）を設定</p>		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.setsunan.ac.jp/about/disclosure/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
理工学部	生命科学科、住環境デザイン学科、建築学科、都市環境工学科、機械工学科、電気電子工学科	1,400,000 円	250,000 円	—	2016年4月以前入学
		1,260,000 円		200,000 円	2017年4月以降入学の2年次以上
		1,290,000 円		200,000 円	2020年4月以降入学の2年次以上
				100,000 円	2025年4月以降入学の1年次
外国語学部	外国語学科	1,060,000 円		—	2016年4月以前入学
		960,000 円		150,000 円	2017年4月以降入学の2年次以上
		980,000 円		150,000 円	2020年4月以降入学の2年次以上
国際学部	国際学科	980,000 円		150,000 円	2022年4月以降入学の2年次
				50,000 円	2025年4月以降入学の1年次
経営学部	経営学科 経営情報学科	1,000,000 円		—	2016年4月以前入学
		900,000 円		150,000 円	2017年4月以降入学の2年次以上
	経営学科	920,000 円		150,000 円	2020年4月以降入学の2年次以上
法学部	法律学科	970,000 円	—	2016年4月以前入学	
			870,000 円	150,000 円	2017年4月以降入学の2年次以上
			900,000 円	150,000 円	2020年4月以降入学の2年次以上
				50,000 円	2025年4月以降の1年次
経済学部	経済学科	1,000,000 円	—	2016年4月以前入学	
			900,000 円	150,000 円	2017年4月以降入学の2年次以上
			920,000 円	150,000 円	2020年4月以降入学の2年次以上
				50,000 円	2025年4月以降入学の1年次
薬学部	薬学科	1,900,000 円	450,000 円	—	2016年4月以前入学
		1,720,000 円		200,000 円	2017年4月以降入学の2年次以上
		1,760,000 円		200,000 円	2020年4月以降入学の2年次以上
100,000 円	2025年4月以降入学の1年次				

看護学部	看護学科	1,650,000 円	250,000 円	—	2016 年 4 月以前入学
		1,510,000 円		200,000 円	2017 年 4 月以降入学の 2 年次以上
		1,550,000 円		200,000 円	2020 年 4 月以降入学の 2 年次以上
農学部	農業生産学科 応用生物科学科	1,300,000 円	250,000 円	100,000 円	2025 年 4 月以降入学の 1 年次
				200,000 円	2020 年 4 月以降入学の 2 年次以上
	食品栄養学科	1,300,000 円		230,000 円	2020 年 4 月以降入学の 2 年次以上
				130,000 円	2025 年 4 月以降入学の 1 年次
	食農ビジネス 学科	1,050,000 円		150,000 円	2020 年 4 月以降入学の 2 年次以上
				50,000 円	2025 年 4 月以降入学の 1 年次
現代社会学部	現代社会学科	945,000 円	150,000 円	2023 年 4 月以降入学の 2 年次以上	
			50,000 円	2025 年 4 月以降入学の 1 年次	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)
 学生個々の学習レベルに応じてさまざまなサポートを行うラーニングセンターを設置している。“面倒見の良い教育”をテーマに、数学、物理、化学、情報処理、英語等の学習相談や補講授業を実施し、入学前から卒業にいたるまでの学習支援体制を整えている。また、不得意科目の克服や授業で不明な箇所、疑問点を解決する場として利用されており、学生のキャンパスライフを支えている。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)
 学生個々の特性や可能性を最大限に引き出し、真に社会に貢献し得る人材育成を目標に、1 年次からキャリア形成に取り組んでいます。
 卒業後の進路について、自分なりのキャリアデザインを描いて学生生活を送れるよう、学年ごとに系統立ったキャリア教育やガイダンス、学内合同企業説明会などの行事を実施。対面開催の行事で直接学生との接点をもって支援することに重点をおいています。
 3 年次（薬学部は 5 年次）からの本格的な就職活動支援の場面では、より学生個々に寄り添ったきめ細かい就職支援体制を整えています。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)
 摂南大学「障がい学生修学支援に関する指針（ガイドライン）※」に基づき、障がい学生に対する支援を行っている。
 また、保健室・学生相談室と連携しながら、学生の心身の健康等についても支援に取り組んでいる。

※ http://www.setsunan.ac.jp/about/activity/ds_policy/

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.setsunan.ac.jp/about/disclosure/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A 4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F127310107947
学校名 (〇〇大学 等)	摂南大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 常翔学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		1,389人（48）人	1,368人（65）人	1,464人（ ）人
内訳	第Ⅰ区分	742人	732人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅱ区分	339人	331人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅲ区分	204人	160人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅳ区分（理工農）	56人	80人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	48人	65人	
	区分外（多子世帯）	人	人	
家計急変による 支援対象者（年間）				-人（ ）人
合計（年間）				1,468人（ ）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	50人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当)	一人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	一人	人	人
計	61人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	一人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	一人
訓告	0人
年間計	一人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
GPA等が下位4分の1	33人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が警告の基準に該当)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	200人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	200人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

「高等教育の修学支援制度の在り方検討会議」（任意様式）

学校名	摂南大学
設置者名	学校法人 常翔学園

1. 入試科目の見直し	
(取組の概要)	
<p>公募制推薦入試・一般選抜においては、文系・理系学部を問わず、「数学」「国語」「地理歴史」「公民」を従前から選択科目として課している。</p> <p>2026年度入試においても、文理横断型の入試科目を課す対象学部を増やすなど、継続的に見直しを行っている（※を付した学部・学科は2026年度入試から適用）。</p>	
1. 「数学」選択科目	
入試区分	文系(対象)学部
公募制推薦入試 前期日程	法学部(※)、国際学部(※)、経済学部、経営学部、現代社会学部
公募制推薦入試 後期日程	法学部(※)、国際学部(※)、経済学部、経営学部、現代社会学部
一般選抜 前期 A 日程(3科目型)	法学部、国際学部、経済学部、経営学部、現代社会学部
一般選抜 前期 A 日程(2科目型)	法学部、国際学部、経済学部、経営学部、現代社会学部
一般選抜 前期 B 日程(2科目型) *	法学部、国際学部、経済学部、経営学部、現代社会学部
一般選抜 中期日程	法学部、国際学部、経済学部、経営学部、現代社会学部
一般選抜 後期日程	法学部(※)、国際学部(※)、経済学部、経営学部、現代社会学部
*新設の入試区分	

2. 「国語」選択科目

入試区分	理系(対象)学部
公募制推薦入試 前期日程	理工学部(生命科学科/住環境デザイン学科(※))、薬学部、看護学部、農学部
公募制推薦入試 後期日程	看護学部、農学部(食農ビジネス学科)
一般選抜 前期 A 日程(3科目型)	理工学部(生命科学科/住環境デザイン学科/建築学科/都市環境工学科)、看護学部、農学部
一般選抜 前期 A 日程(2科目型)	理工学部(住環境デザイン学科(※))、看護学部、農学部(食品栄養学科(※)/食農ビジネス学科)
一般選抜 前期 B 日程(3科目型)*	理工学部(生命科学科)、看護学部、農学部(農業生産学科/応用生物科学科/食品栄養学科)
一般選抜 前期 B 日程(2科目型)*	理工学部(住環境デザイン学科)、看護学部、農学部(食農ビジネス学科)
一般選抜 中期日程	看護学部、農学部(食農ビジネス学科)
一般選抜 後期日程	看護学部、農学部(食農ビジネス学科)

*新設の入試区分

3. 「地理歴史」「公民」選択科目

入試区分	理系(対象)学部
一般選抜 前期 A 日程(3科目型)	農学部(食品栄養学科(※)/食農ビジネス学科)

また、大学入学共通テストを利用・併用する入試においても、文系・理系学部を問わず、2025年度入試から「情報」を選択科目として課している。

2. 入学後の文理横断型の教育、複線的・多面的な学び、全学的なデータサイエンス教育等の総合知を育成するための学生の学びの充実に向けた取組

(取組の概要)

本学では、学修の幅を広げる多面的な学びの一環として「摂南大学 PBL プロジェクト」を展開しています。企業や地方公共団体と連携しながら課題を発見し、文理の枠を越えた受講生がそれぞれの知識を活かして課題の解決に取り組むことで、本学の「教育の理念」で謳う「人間力」と「実践的能力」を養成しています。

また、デジタル社会で活躍できる人材を育成すべく、全学部を対象に文部科学省の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」(2025年度認定申請中)に準拠したデータサイエンス教育プログラム『SU-MDASH(リテラシー)』

(Setsunan Univ./Skill-Up)を提供しています。当該プログラムでは、「数理・データサイエンス・AI」を適切に理解し、各専門分野でそれらを使いこなすことができる基礎的な力を涵養することを目指しています。